

ゆうかり

第21回移住者子弟一般技術研修員
研 修 レ ポ ー ト

1994年2月

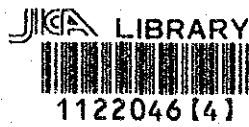
国際協力事業団

移 国
JR
94 - 7

00
94
51
RARY

ゆゑかり

第21回移住者子弟一般技術研修員
研 修 レ ポ ー ト



28304

1994年2月

国際協力事業団

28304

ま え が き

国際協力事業団では、中南米各地の移住者子弟を本邦に招致し、その子弟の属する地域社会の発展に必要な技術および知識を修得せしめることを目的に移住者子弟一般技術研修制度を実施しています。

この制度は昭和46年度に開始され、平成5年度までに受け入れた研修員の総数は、500名をこえています。

本誌は第21回生（研修期間：18カ月コース平成3年4月～平成4年9月、24カ月コース平成3年4月～平成5年3月）の研修総括報告書をまとめたものです。

研修員は幼い頃両親に連れられて移住した人、あるいは中南米の地で生まれた二世、三世の人達の中から選ばれた者ですが、父母あるいは祖父母が生まれ育った国における研修は単に技術を身につけるということだけではなく、日本の文化そのものを学ぶ良い機会ともなっています。研修員諸君は帰国後、日本の社会の中で体得した技術と知識を生かし、移住地および地域社会の発展に貢献するとともに日本および中南米諸国との架け橋となって活躍されることと確信いたします。

最後に、移住者子弟一般技術研修制度に深い理解を示され、研修員を温かくご指導くださいました関係機関の皆様に改めて感謝の意を表する次第です。

1994年2月

国際協力事業団
移住事業部長

目 次

まえがき

研修総括報告書(18カ月コース)	研 修 科 目	頁
1. 安里エミリオ	花卉園芸 (アルゼンティン フェリス)	1
2. 大城モニカパトリシア	養鶏 (" コルドバ)	3
3. 呉屋リリアナマルガリター	花卉 (" フェリス)	6
4. 西沢由美	コンピュータ (ボリヴィア サンタ・クルス)	8
5. 伴井早苗	コンピュータ (" サンファン)	10
6. 長瀬小夜サンドラ	看護 (ブラジル ベレーン)	11
7. 赤岡隆夫	花卉 (" アルソンドレ・グス)	12
8. 宮田諒司	自動車エンジン整備 (" ペロ・リガテ)	15
9. 小林武馬エルネスト	機械技術 (" シン・ジョゼ・ドス カボス)	16
10. 高橋セルジオ浩一	花卉 (" エジ・ダス・カルゼス)	17
11. 立岩のえみ	看護 (" ロンドリーナ)	21
12. 田中庸若セルジオ	花卉 (" エジ・ダス・カルゼス)	29
13. 谷口レジーナ智恵子	物理療法 (" サン・パウロ)	33
14. 土井ローザ雅江	コンピュータ (" サン・パウロ)	38
15. 杉内シルビアしづか	野菜施設栽培 (" レジストロ)	42
16. 高橋ジョージ高志	野菜施設栽培 (" カノイニアス)	44
17. 豊原憲二エジソン	ぶどう栽培 (" マルアルバ)	46
18. 梨元雄二トニ	果樹 (" シン・ガブリエル)	47
19. 水口セルジオ成二	野菜施設栽培 (" ジャカレイ)	48
23. 熊野新太郎ダニエル	車両整備修理 (バラグァイ ラ・コルメナ)	51
26. 三井エスベランサみどり	臨床検査技術 (バラグァイ アスンシオン)	52
27. 佐野高橋カシメラカリータ	グラフィック・デザイン (ペル リマ)	54
28. ロハス北条マリアリシャ	マーケティング (" リマ)	56
29. 鷺見美枝アンヘラ	水産食品加工 (ウルグアイ カネロネス)	61
30. 児玉純男リカルド	コンピュータ (ベネズエラ カラカス)	63



第21回 移住者子弟一般技術研修員

ロハス
北条
マリアリンヤ



研修総括報告書（18カ月コース）

安里 エミリオ
(アルゼンティン ブェノスアイレス)



1. 研修機関及び研修期間

(1) 堂ヶ島洋らんセンター (沖縄県)

平成3年5月～4年3月

(2) 第一園芸プランテック (静岡県)

平成4年4月～4年9月

2. 受入期間 (来日日～離日日)

平成3年4月～4年9月

3. 研修科目

花卉園芸

4. 当初の研修計画 (テーマ, 研修内容等)

来日前に6か月間ブェノスアイレスのJICAで研修を受けました。そのときに日本の花卉栽培技術 (特にラン), 品種改良, バイオテクノロジーによる組織培養に興味を持ち, これらの点について学ぼうと考えていました。

また, 私の両親の故郷のことばや日本の幅広い文化にも触れてみたいと思っていました。

5. 研修概要 (具体的研修内容及び成果)

(1) 前期 平成3年5月～4年3月 — 堂ヶ島洋らんセンター (沖縄県)

最初は, 会社の仕事が忙しく, 残業も多くてなかなか自分の勉強の時間がとれませんでした。(会社での主な仕事は温室建築工事, ビニルハウスの修理等でした。)

4か月ほどしてランの栽培管理の仕事をやらせていただけるようになりました。

カトレア, バイオペディウム, フアレノプシス, デンファレの温室環境調節 (天窓, 側窓の開閉, 下水したり, 日照管理, 施肥管理, 灌水方法) ランの苗をプラスチックから出したり, 苗を水苔で巻いたり, POTにうえたり, また出荷もやりました。

(2) 後期 平成4年4月～4年9月 — 第一園芸プランテック (静岡県)

最も勉強になったのは, 諸花卉の育種・品種改良, 試験栽培, 組織培養でした。又, その他にもカーネーション, ガーベラ, ユリ, リモニウム等の灌水管理, 交配, 定植, 整地, 土壌消毒等を学びました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

(1) 前期 (沖縄県)

会社側が他のラン栽培の研究所, 施設などの見学を計画せず, 一度も実現しませんでした。

そのために個人的に施設を見学したり, 講習会などに参加しました。

その他ラン栽培者の話を聞きました。個人的に知り合った人々から得た知識が多かったです。

(2) 後期 (静岡県)

おおむね、私の希望していたとおりの勉強ができました。

7. 本邦での生活状況

(1) 前期 (沖縄県)

沖縄にこられてよかったです。たくさんの方と知り合いになり、とても楽しかったです。両親の故郷の文化にも実際にふれることができました。仕事の後で習字や太極拳を習ったり、焼物、織物、博物館などの見学にも行きましたが、最も印象に残ったのは平和記念公園でした。

戦争の大きな傷跡に大変ショックを受けました。

(2) 後期 (静岡県)

山の奥に住んでいたので仕事以外の人と知り合う機会があまりありませんでした。でも富士山の近くに住むことができよかったです。

8. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

研修員は、この研修を機に、日本語をしっかりと学んで下さい。そして日本人の友だちをたくさん作り、日本のことをよく学んで帰って下さい。

研修の始めに、会社、研修員、担当者が研修計画内容についてよく話し合ったほうがいいと思います。

研修員は決められた期間内容で研修をしなければならないので自由な時間を有効に使わせていただきたいです。

そうすれば、色々な話をするにより、より多くの事を知ることが出来ると思います。

9. 帰国後の計画

アルゼンチンに帰国後やってみたいことは沢山あります。色々な新品種の紹介、技術の改良、栽培作業の改善・組織化、ランの培養技術の導入等々です。

また、花の品質を向上させること、新しい需要の分野を開拓していくことも今後の課題であると個人的には考えています。

10. 所感

日本に来てみて、ここでは花と生活が深く結びついていると感じました。羨ましい限りです。春には桜の花を愛で、朝顔に夏を感じ、紅葉に秋の訪れを知り、冬の裸の木さえ趣深いと言います。男女を問わず、日本人は花に対して一種の愛情やフィーリングを抱いているように見うけられます。まるで花が自分の生活や人生の一部であるかのようです。ですから需要の幅が大変広いのだと思います。最後になってしまいましたが、私の研修のために大変ご尽力下さいましたJICAの皆様、色々ご教示下さいました先生方、堂ヶ島洋らんセンター・第一園芸プランテックの皆様にご心からお礼申し上げます。



1. 研修機関及び研修期間

社団法人国際農業者交流協会

- (1) 錦崎(株) (千葉県佐原市) 3年5月～3年12月
- (2) 長野県畜産試験場 (長野県塩尻市) 4年1月～4年3月
- (3) 岡田洋蘭園 (愛知県豊田市) 4年4月～4年9月

2. 受入期間 (来日日～離日日)

1991年4月～1992年9月

3. 研修科目

- ① 養鶏採卵鶏の管理・卵G.P.センター
- ② 養鶏飼料の配合
- ③ 洋蘭, シンビジウム

4. 当初の研修計画 (テーマ, 研修内容等)

アルゼンチンで現在, 養鶏をやっています。もっといい養鶏場を出来る様に日本に勉強をしに来ました。

テーマと言うと, やはり良く卵を産みさせるために大事な管理を中心のテーマと選びました。

- ・管理
- ・APPLICATION OF TECHNICS
- ・G.P.センター (卵)
- ・配合飼料

5. 研修概要 (具体的研修内容及び成果)

(国際農業者のプログラムについて, 三ヶ所に分けてありました。)

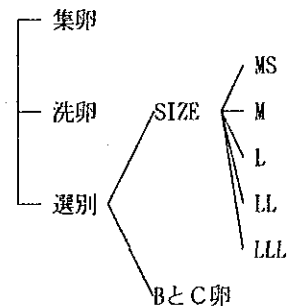
① 千葉県 錦崎(株)

養鶏, 採卵鶏の勉強をしました。

1. 管理について:

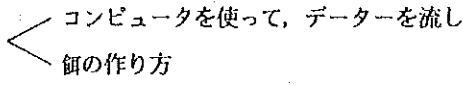
- ヒナのデビュー
- 餌ならし
- 産卵率のデータ
- 鶏の体をはかること
- フクチネーションのプログラム
- 温度のコントロール
- ワクチン

2. G.P.センターについて

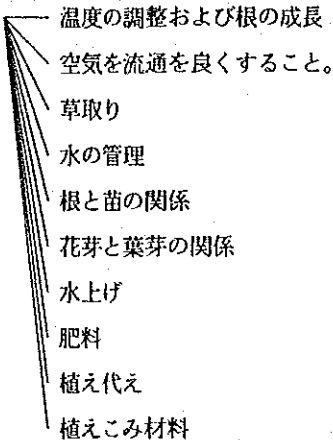


② 長野県 畜産試験場

養鶏, 採卵鶏

1. 配合飼料 
 - コンピュータを使って, データーを流し
 - 餌の作り方
2. 卵 — HANGH UNITの計算
3. 人工受精
4. 鶏肉の切り方

③ 愛知県 岡田洋蘭園

1. 管理 
 - 温度の調整および根の成長
 - 空気を流通を良くすること。
 - 草取り
 - 水の管理
 - 根と苗の関係
 - 花芽と葉芽の関係
 - 水上げ
 - 肥料
 - 植え代え
 - 植えこみ材料

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

当初の研修計画した通りにやって来ましたが、やっぱり日本は大変進んでいますので立てたプラン（計画）より良い勉強になりました。

私が思ったのは鶏舎の中にあるテクニックあるいは機械は一つのテーマになりましたが研修先にはG.P.センターもありましたので、本当に良かったと思いました。そして、最初のころに出来なかった勉強（飼料配合）を長野県畜産試験場に学ばせていただきました。コンピュータを使うようにしたので、大変良かったと思います。その後は農業経営の勉強もさせていただき、色々なことが分かる様になりました。

最後の期間は畜産と違って、花の勉強をやり始めました。なぜかと言うと、まずアルゼンチンで養鶏に必要な材料（穀物あるいは化学の物も）の値段は国際値段ですから、決まっていないため、たまごの値段と材料の値段はバランスがうまくとれないからです。

2番めは鶏の糞はとてもいい肥料になるので、花に使いたいと思ったからです。全部合わせて、当初の研修計画に比べたら、思ったより大変勉強になりました。

7. 本邦での生活状況

日本に来てから、一番困ったことは、やはり言葉でしたが、海外移住センターで1ヶ月半、日本語の勉強をして、大変良かったと思います。そして、その間に南米の研修生達と一緒に生活を過ごして、楽しくしながら、どんどん生活の言葉をおぼえて良かったと思います。

その後は研修先へ行き、ホームステイの形態で、初めて、日本人の家族と生活をして、最初は困りました。しかし皆は親切に教えてくれて、勉強になりました。

8. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

日本人達は私達の国でやっていることを、こまかくきいてくるので答えに困らない様に日本に来る前に出来るだけ正しいデータの勉強をしたほうがよいと思います。

そして研修先で勉強を進めるために、日本に来るまえは専門用語を学んで来たらいいじゃないかな・・・と思います。

9. 帰国後の計画

実家で現在、養鶏をやっておりますがまだ小さいですから、帰ってから、日本で学んで来たことを少しづつやってみたいと思います。最初は私の住んでる州の市場の勉強をして（どこまで卵を売れるかどうかという事）その後、プロジェクトを決め希望を広げたいと思っております。希望を広げながら出来るだけヒナから良い管理をして、ワクチンのプログラムを果して、いい餌を食べさせて、体重もはかって、良く卵を産みさせたいと思います。そして産卵率のコントロールをきちんとして、正しい選別しながら売り上げを高くしたいと思います。

花（シンビジューム）について、やっぱりシンビジュームの苗をプラスチックで持って帰りますので、できるだけいい花を咲かせるため、正しい管理したいと思います。花の場合はまだ夢なんですけど、一度に少しづつ殖やして、どの様になるか、最初研究してうまく行けば、商売もしたいと思っております。失敗しても、どうしても一生懸命仮名張って行きたいと思っております。

10. 所感

日本に来たころ、長いと思っていた一年半は、今考えると、アッと言う間に過ぎてしまいました。国際協力事業団のお陰で日本に研修をさせていただきまして、とても有り難い事と思っております。

この一年半は、まず、勉強いっぱい出来て、友達そして、楽しい思い出たくさん作って、色々な人と会って、お話しも出来て、農家の家族とも楽しい生活を過ごして、安全の日本で安心も出来て、一つの大きな楽しい思い出になりました。

アルゼンチンへ帰えてから、日本で学んだ事を、養鶏あるいはシンビジュームのお話しをしたと思って、仕事やりながら、心を強くして、自信を持って、毎日、一日、頑張りたいと思っております。

最後になりましたが、国際協力事業団の皆様、18か月大変お世話になり、良い勉強をさせていただきまして、心から感謝しております。次から次の研修生達をよろしくお願い申し上げます。

そして、国際農業者交流協会の皆様、長野県畜産試験場、受入れ農家の皆様、千葉又長野又愛知県庁の皆様一年半どうも有り難うございました！！

呉屋 リリアナ マルガリター
(アルゼンティン ブエノスアイレス)



1. 研修機関及び研修期間

(1) 堂ヶ島洋ランセンター

1991年5月～1992年3月

(2) 岡山大学農学部作物発育調節学研究室

1992年4月～1992年9月

2. 受入期間(来日日～離日日)

1991年4月～1992年9月

3. 研修科目

花卉園芸

4. 当初の研修計画(テーマ, 研修内容等)

ランの栽培技術と組織培養

5. 研修概要(具体的研修内容及び成果)

1) 洋ランの栽培管理および技術(堂ヶ島洋ランセンター)

洋ランの栽培管理の実習をしました。

JICA担当者と宮古島と石垣島の農業を見学しました。

2) 岡山大学花卉の栽培管理および技術

洋ラン, キク, グロリオサ, ワックスフラワ, カラ, スターチ, ソリダスタ, の栽培実習をしました。

“花の園芸用語事典”, “植物の生長と発育”, “植物組織培養の世界”, 本を勉強しました。

洋ラン, ユリの組織培養繁殖を行いました。

月3回土曜日フラワーアレンジメントを習いにいきました。

農義洋試験場, 農家の施設見学しました。

パーソナル コンピュータの使い方を勉強しました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

沖縄について

私は仕事を体で覚えることも大切なことと思いましたが, けれども研修に関して, ランの成長に応じて仕事の役割を与えて欲しかった。

コショウラン, カトレア, デンファレの植方, 温室管理, 花が咲くところまで, 順序よく仕事をさせて欲しかった。仕事をする時にはその仕事の内容や手順を説明してくれれば最も良く分かると思います。

会社は私に培養の研究を約束しましたが, 実際にはやらせてくれませんでした。

会社側は他のラン栽培の研究所施設つなどの見学を予定して, いそがしくて紹介と連絡があ

りませんでした。そこで個人的に、友達から紹介してくれて、見学したり、講習会など、に参加したり、指導を受けました。それがもっと勉強になりました。

大きな会社ですからいろいろな品種を知ることができます。そして、多くの人と接することができます。

大学について

勉強、しすぎた、いやになっちゃった、(じょうだんです)

そうではないです、大学では、勉強したい人は勉強でき、したくない人はしません、それは自分で決めます。なんでも勉強したいことは実際に勉強でき、また実行できました。先生方、学生達、一緒に温室の管理をして、指導を受けました。できないと思った事もできました。一つ残念に思ったことは、時間がたりなかったことです。

日本語がよく勉強できました。

担当者の方も親切で気をつけていただきました。

7. 本邦での生活状況

会社がアパートを貸してくれた岡山でも下宿に住んで、準備もしてくれていたの、安心して生活できました。友達を作って、色々なことを教えてもらって、困った時にも助けてもらいました。たくさんの方と知り合いになったり、とても楽しかった。充実した。

日本の文化がたくさん学べた。

8. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

毎月計画を立てる時に研修員の意見を取り入れた方がいいと思います。

場合によっては研修期間を1年ではなく、6か月間単位ぐらいにして。例えば、前期にうまくいかない時に、6か月はその所で頑張る、また同じ地方の他の場所で学べるようにするのも良いと思います。

自分から積極的に出会いのチャンスを作った方が良いと思います。

9. 帰国後の計画

私は帰国して、日本で学んだ事を、実際の仕事に役立てていきたいと思っています。花栽培技術を勉強して、少し自信ができたので続けるつもりです。

10. 所感

日本に来て自分の国の社会的な範囲を広げることができました。政府と会社と民衆、皆力を合わせたら、わが国も、日本のようになるかな？

親に聞いた日本のことを実際に見ました。



1. 研修機関及び研修期間
平成3年4月～平成4年9月
長崎コンピュータ専門学校
2. 受入期間 (来日日～離日日)
3. 研修科目
コンピュータ プログラミング

4. 当初の研修計画 (テーマ, 研修内容等)

COBOL, C等いろいろなプログラム言語で事務処理関係のプログラムを作成出来るようになる。

ワープロ

dBASE III

LOTUS

5. 研修概要 (具体的研修内容及び成果)

研修内容としてはつぎのとおりです。

- ・ソフトウェア基礎
- ・ハードウェア基礎
- ・プログラム技法
- ・COBOL言語
- ・プログラム設計
- ・プログラム開発
- ・データベース
- ・MS-DOS
- ・オンライン・システム
- ・商業簿記
- ・一般常識 (英語, 社会, 経済, 数学, 国語, 文化)

この1年半でコンピュータの基礎からプログラム設計, プログラム開発, フローチャート, コーディング, テスト, エラー修正を覚えました。主にCOBOL言語でプログラム作成をできるようになりました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

当初の計画としては前にも述べたようにいろいろなプログラム言語でプログラムを組めるようになることでしたが, プログラムを組めるようになる為には数学, 簿記等の知識もなければなら

ない、学校の方のプログラムに合わせたので他の言語も勉強したかったんですが、COBOLかCか、どちらかひとつ選択しなければならず、COBOLだけしか覚えられなかったのが残念です。

7. 本邦での生活状況

日本に来る前は、いろいろな面でとても不安でした、それは日本に来ていた友達から、日本人はとても冷たいとか、話が会わないとか聞いていたからでした。でも、長崎に来てすぐに寮でも、学校でも友達が出来て、学校の先生方もとても親切にしてくれました。

友達の紹介で国際人クラブに入り、長崎の市民のつどいや国際人による弁論大会などに三かすることができ、長崎の人達、外国人などたくさんの人とお話する機会もありました。

少し苦労したと言えば東京の方に出たときの電車の乗り換えと、物価がとても高い事、それと、冬が長いことでした。

8. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

研修期間に関して、私みたいに専門学校で研修をする場合1年半は中途半端なので、出来るなら2年にして頂けたらと良いと思います。

9. 帰国後の計画

国際協力事業団のサンタクルス支所で勤める予定です。ワープロ、コンピュータ関係の仕事をしていきたいと思っています。

10. 所感

両親から日本の話はいつも聞いていて、一度は行ってみたいと思っていたので、研修生として勉強に来れたこと、そして、両親の故郷、長崎で研修ができたことを、とても嬉しく思っています。

小さいけど、沢山の観光地がある日本を研修旅行で伊豆、伝統的な金沢等また、夏休みには沖縄にも行けて、とても真っ青な美しい海を見れたこと等、たくさんの素敵な思い出ができました。

研修機会を与えてくださった国際協力事業団、いつも相談にのっていただいた担当者の方々、熱心に教えて下さった先生方、いろいろありがとうございました。心からお礼申し上げます。

帰国後も日本での経験をいかして頑張っていきたいと思っています。

伴 井 早 苗
ポリビア (サンファン)



1. 研修機関及び研修期間
サッポロ ハイテク アカデミー
平成3年4月～4年9月
2. 受入期間 (来日日～離日日)
3. 研修科目 情報ビジネス

4. 当初の研修計画 (テーマ, 研修内容等)

研修計画は一年サッポロハイテクアカデミーで勉強し後の6ヶ月は富良野で実習する予定でした。

帰国後, サンファン農業での実行。

5. 研修概要 (具体的研修内容及び成果)

最初の一年間は, 情報ビジネス科に入り, そのクラスでは, ワープロ, BASIC, dBASE, 英語, 会計, 簿記などを勉強しました。

後の半年間は, 課目を選び, その課目を勉強しました。この半年間では, ビジネス科とちがった勉強をし, 自分のためになりました。この半年間では, パソコン通信, 通信システム, COBOL, C言語などを勉強しました。

自分としては, もう後半年間勉強をしたかったです。卒業できなかったことが残念です。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

当初の計画では一年間サッポロハイテクアカデミーで勉強し, 後の半年間は富良野での実習でしたが, 一年間での勉強ではあまり理解ができず, 先生方の方でも後の半年間, 勉強した方が良かったとのことで, 後の半年間もおなじ学校で勉強をしました。

この半年間の勉強, とても良かったと思います。

7. 本邦での生活状況

生活滋養強では, あまり問題がなく, ただ冬がちょっとくるしいくらいでした。

8. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

学校, 又は専門学校二年コースの方達は2年間を選ぶこと。

北海道の方達は冬が大変なので, 生活費を相談する。

9. 帰国後の計画

帰国後の計画では, サンファン農業での実行をしたいと思っています。

10. 所感

北海道はとてもキレイな所です。

夏もすごしやすく、冬がちょっとたいへんです。
学校では、友達も良くしてくれました。

長瀬小夜サンドラ
ブラジル（ベレーン）



1. 研修機関及び研修期間

聖マリア病院

1991年5月～92年9月

2. 受入期間（来日日～離日日）

3. 研修科目 外科看護

4. 当初の研修計画（テーマ、研修内容等）

看護実務を体験することによって看護知識、技術の向上をはかり、現場での看護管理、教育ができるようになる。

5. 研修概要（具体的研修内容及び成果）

看護部の取り計らいより、次のような現場にて研修を行った。

外科病棟、一般集中治療室、脳神経集中治療室、救急治療室、手術室、小児集中治療室、新生児集中治療室

各セクションにおいて専門知識、技術を身につけて患者に対しても、適切な看護ができるようになったと思う。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

セレクションによっては実務の体験は、ベーシックなケアだけで、後は観察だけで終わった所もある。

教育のシステムは大部分異なっているということもあって自国で取り入れるのは難しいであろう。

7. 本邦での生活状況

病院内の寮に他の外国のJICA研修生と住み、各国の生活習慣に触れることができた。これといったトラブルは起こらなかったが文化や考えの違う者同士なので食い違いが生じたこともあった。

研修で日本の各地を旅行する機会があった。

合気道を習い初めてからはストレスも少しは減ったように思えた。

食事は病院の人間ドックの物なのでバランスがとれた食生活が送れた。

8. 本研修に対する提言、要望など

技術研修ということで、看護の現場だけでなく、看護学院、または看護短大などで学習も行わなければ、看護のなんたるかを分からずに真似事だけで終わってしまうのでは？ ナースたちも人手不足でそうそう研修生にもかまっていられないのが現状である。

9. 帰国後の計画

アマゾン日伯病院へ復帰して日本で学び得た看護を行う予定。

日系人の社会へ奉仕することが望ましいと思う。

10. 所感

グループ意識の強いナースたちの中にとけこむのは実際の研修より困難であった。各現場における医療機器の複雑さにおどろき、それらの取り扱いや管理に伴う看護の難しさには悩まされた。

赤 岡 隆 夫

ブラジル (アレシャンドレ・グスマン)



1. 研修機関及び研修期間

(1) 岡山大学農学部

'91年6月～'92年3月

(2) 株式会社 ミヨシ

'92年4月～'92年9月

2. 受入期間 (来日日～離日日)

'91年6月～'92年9月

3. 研修科目

農業花卉園芸

4. 当初の研修計画 (テーマ, 研修内容等)

花卉栽培について

5. 研修概要 (具体的研修内容及び成果)

前期の10カ月間は岡山大学農学部作物発育調節学研究室で研修致しました。

本研修では6カ月間ほど小西先生の授業をほとんど毎日受け、日本語が大分読めるようになり、花の園芸用語も沢山覚え、あるいは植物の生長と発育、特性を勉強しました。

研究室では学生さん達と仲間よく、楽しく付き合い、花卉研究室の圃場では一緒に作業をしたり、温室当番などをしました。

また、栽培の方ではいろいろな植物を使い、それらの一般的な栽培と管理の仕方を知り、特に開花調節が近代的な花卉生産では重要な課題と思いましたので、開花調節の実験も行いました。

ソリッドアスターの栽培：

ソリッドアスターは温度にはあまり関係なく長日であればロゼットにならないで伸長し、短日に移せば花芽分化、開花します。ソリッドアスターは電照を行えば周年生産ができることが分かりました。

宿根カスミソウの繁殖と冬出し栽培：

宿根カスミソウは最近になって周年生産できるようになりました。宿根カスミソウの研究が進み、その生育特性がよく知られてきて、栽培が拡大しました。しかし、宿根カスミソウの繁殖はまだ難しいものとされていますが、100%発根させる方法が分かりました。

また、ロゼットにならない冬出し栽培方法は二通りあります。

- (1) 古株の長期間冷蔵による冬出し
- (2) 挿し木苗による冬出し

キクの直接短日定植法およびロゼット防止：

キクは普通定植後35～40日間電照して、ある程度生長させてから電照を打ち切って開花させます。直接短日定植法では育苗中だけ電照し、その後は電照なしで栽培してみたところ良い切り花が生産できました。

また、冬出し栽培にはロゼット防止には穂冷蔵すればロゼットにならないで良く生長することも分かりました。

スターチスシヌアータの促成栽培：

スターチスシヌアータは種子の低温処理法、または株冷蔵による促成栽培が行われていますが、ここでは最も簡単な方法で促成栽培を行い、秋から春まで開花させることが出来ました。

フリージアの栽培：

種子系のフリージアは開花が遅いため日本では栽培があまり行われていませんが、種子系のフリージアを促成してみたところ1月中旬から開花させることが出来ました。

大キク福助の栽培：

福助は昔から趣味家で多く作られています。鉢物としては安定した作り方がよく普及していません。栽培上ではいろいろな問題があり特に施肥と灌水が難しいとされていて、栽培としてはあまり行われていません。ここでは小西先生が書いたマニュアルにしたがって初めて福助の栽培を行い、立派な福助になりました。このマニュアルによって栽培すれば誰でも福助を作れるようになると思います。

切り花の処理剤の利用：

日本では切り花の寿命を延長するため切り花の処理剤液が多く使われています。カーネーションを用いて処理液を吸わせたものと吸わせたものを比べたところ、切り花の寿命が倍になることが分かりました。

後期の6カ月間は株式会社ミヨシで研修致しました。

本研修では3カ月間ほどはミヨシ内で各チーム（培養、育種、試作チーム小黑担当、篠原担当、金田担当とカーネーションファクトリー）で2週間程各チームで研修しました。この期間では各チームにかかる基本的な作業、交配、定植、植え替え、挿し木、花卉類による栽培管理、あるいは今後の花卉栽培による課題と解明を検討しました。

残り3カ月間は小黑担当試作チームで研修しました。

ここでは宿根花卉について研修を行い、数多くの花卉類について知ることができ、私の認識を深めることが出来ました。

試作チームでは毎日チームにかかる色々な作業と主に：

→挿し芽、株分け、種子の調整、苗の検品と箱詰め、播種から育苗までの管理、苗の植え替えまたは鉢上げ；

→ソリダコについての品種特性の調べと調査；

→日本で売られている花卉類の寿命の延長剤が夕霧草とアスチルベについての適切な濃度と商品名の調査；

夕霧草にはコートフレッシュのカスミ草用が最も効果的であったが、アスチルバについては差は認めませんでした。

→アスチルバの秋出し栽培；

→グリーンパール、スクテラリアの種子低温処理（5℃で3週間、4週間）が発芽率に及ぼす影響；

→ケマンソウの夏出し；

高温のため花芽分化しなかった。

また、依託先の視察（南相木）と見学がとても参考になり、新しい意見、情報が聞くことが出来ました。

ミヨシでの研修は大学と違って、理論的に覚えたことがここで実際に栽培上で経験することができてとても良かったと思いました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容を比較して

初めの第一希望はキクの栽培でしたが、キクまたは色々な花卉の栽培、管理方法、開花調節、一般的な花卉生産で重要な課題を勉強しました。

7. 本邦での生活状況

日本での生活では色々な新しいことを体験しました。

日本では生活は便利で、生活の方ではあまり問題はありませんでした。

8. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

- 自分の国のことをよく知ること、
- 日本語をしっかり勉強すること、
- 研修内容をはっきりして来ること

9. 帰国後の計画

今後の計画については、色々な花の栽培を学んだことから、ブラジルでまだ生産が盛んではない、また珍しい花の栽培を行うことを目標としています。

ブラジルの花卉生産は遅れておりますが、進むにしたがって、これから日本で学んだことを実行して、安く、品質の良い花卉生産に力をかけていきたいと思っています。

10. 所感

私に対しては日本語が思わなかったほど上手になり、色々な事を学び、あるいは体験し、本当に良い研修だと思っています。

研修中大変お世話になりました中国支部、関東支部、JICAの皆様へ感謝の気持ちを表します。また、JICAが私に日本での研修の機会を与えてくださったことを心から感謝の気持ちを表します。

宮 田 讓 司

ブラジル（ペロ・オリゾンテ）



1. 研修機関名および期間

(1) 土浦産業技術専門学院

3年5月～4年3月

(2) 加藤自動車興業株式会社

4年3月～4年9月

2. 受入期間（来日日～離日日）

3. 研修科目

自動車エンジン整備

4. 当初の研修計画（テーマ、研修内容等）

自動車チューニング（レーシングカーのエンジンパワーアップ、サスペンションとブレーキの改造）

5. 研修概要（具体的研修内容及び成果）

- 一 車の各部品の名称を覚え。
- 一 工具の使い方。
- 一 分解、測定、組み立てのやり方。
- 一 サーキットテスト、ドエルタコテスト、ボッシュテスト、車に使われるテストの名称、使い方、読み方。
- 一 点検整備と車検整備のやり方。

- 三菱車（ギャラン） 本田車（シビックとアコード） エンジンとシャシーの点検整備，分解，測定，組み立てをやりました。
- トラック4トン車クラッチ交換，点検と車検整備。
- トヨタ車，ニッサン車点検と車検整備。
- スズキ，カルタスエンジンアセンブリ交換。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

当初の研修と実際の研修はほとんど関係ない事をやりました。いままで日本でやってきた事はほとんど国でやってきたのでそれ以上の技術（車の性能を上げる事）を覚えるために日本へ来ました。残念ながら希望した研修が出来なかったが，オートマチックトランスミッションと電子燃料噴射装置は勉強になりました。

7. 本邦での生活状況

アパートに一人で住み朝食と夕食は自分で作り昼は弁当をたのんでいました。小さな買い物は近くのコンビニエンスストアで買っていましたが，大きな買い物は遠いスーパーでした。

週末や休日は親戚の家に行ったり，東京へ来たりしてました。

8. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

研修生が求めている研修内容をよく判断しそれに対して研修先を捜してほしい。

9. 帰国後の計画

近い将来自分の修理工場を開くつもりです。

10. 所感

日本へ来て感じた事は現在の修理工場は車を修理しないで部品を交換する，つまり車が故障して原因が分かたらその部品を取り外ずして修理をしないで新しい部品を取り付けるだけ。

小林武馬エルネスト

ブラジル（サン・ジョゼ・ドス カンボス）



1. 研修機関及び研修期間

新潟鉄工工作機工場

03年05月～04年09月

2. 受入期間（来日日～離日日）

3. 研修科目

機械技術

4. 当初の研修計画（テーマ，研修内容等）

- 設計技術習得

— CAD/CAM (コンピュータ支援製図/製造) 習得

5. 研修概要 (具体的研修内容及び成果)

- 機械製図基礎学習
- NCスクールでの数値制御の基本, NCプログラミングの学習。
- CAD (コンピュータ支援製図) の操作, 製図。
- 実務による機械製図, 構造, 仕様などの知識を習得。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

- CADは完全に覚えた。
- 製図に関する知識は増えたが, まだ完全に使いこなせない。

7. 本邦での生活状況

工場の独身寮。一人6畳の部屋, 風呂付き。三度の食事は工場, 寮の食堂で出て, 休日は外食。寮の地理的な位置は工場から歩いて10分, 街までバスで30分の所。部屋代は割安。県内に多くの親戚がいて, 生活用具を貸りた。職場の旅行, 宴会, その他に参加。工場の研修担当者にもいろいろな所に連れていってもらった。

8. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

- 研究レポートはやはり, 三か月毎より一か月毎の方が良いと思う。

9. 帰国後の計画

- 就職先を探し, 研修で得た知識を活用。

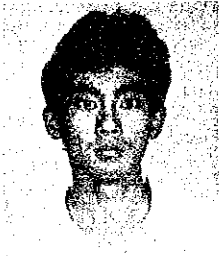
10. 所感

研修先では仕事にもかかわらず, マイペースで勉強させてもらって, 迷惑かけたけれど確実に覚えたことがたくさんありました。

国際協力事業団の皆さん, ありがとうございます。

高橋セルジオ浩一

ブラジル (モジ・ダス・クルーゼス)



1. 研修機関及び研修期間

高知県農業技術センター

3年4月～4年9月

2. 受入期間 (来日日～離日日)

3. 研修科目

花卉栽培と花卉類の組織培養の技術

4. 当初の研修計画（テーマ、研修内容等）

花卉類の組織培養の技術方法では、まず始めに、組織培養室の設備の配置と利用方法を学び、それから茎頂培養、大量増殖方法を学ぶことでした。その他、花卉栽培方法、主に鉢花類の栽培についての実習でした。

5. 研修概要（具体的研修内容及び成果）

前期の研修を始める前に、神奈川県横浜市の国際協力事業団海外移住センターで1ヶ月半の日本語講習を受けました。日本語の知識も増え、又日本の文化について、茶道をはじめ、書道、生花を体験できました。5月中旬に日本語の講習が終わり、研修先に移動しました。

前期・後期は高知県農業技術センターの作物園芸部花き科で、1年半を通して花卉栽培・花卉類の組織培養の研修を行いました。当所についた当時、落成したばかりで、試験されていた花卉類は少なく、最初の作業は旧園芸試験場からの施設や設備の移動に時間がかかりました。

当所では、高知県内の代表的な花卉類の栽培試験研究を行っており、又外国から輸入されている花卉類を国内で生産できるよう栽培試験を行っています。

研修は上記で述べた県内で栽培されている花卉類では、トルコギキョウ、スターチス・シヌアーク、宿根カスミソウ、ワックス・フラワー、その他について、研究担当者から技術・栽培方法の講義を受けてから実習を行いました。以下は種類別について研修内容を述べます。

*トルコギキョウ

- ・冬～早春出しの促成栽培で固定種と一代雑種の品種比較；
- ・促成栽培における夜冷育苗でのロゼット防止；
- ・冬～早春出し作型における栽培適温；
- ・冬出し栽培で早生品種を用いた2度切り栽培方法；
- ・植物調整剤を利用した、鉢物の商品価値の検討。

*スターチス シヌアーク

- ・促成栽培における夜冷育苗と冷房育苗の比較；

*宿根カスミソウ

- ・1～2節と3節の挿し穂の発根率と後の成育の比較；
- ・定植時期での苗齢とロゼット防止；
- ・2度切りの栽培方法；

*ワックス・フラワー

- ・増殖方法につき、挿し木時期・挿し穂の部位・発根促進処理；
- ・秋～冬季の栽培・生育温度と耐寒性の調査；

*その他、

- ・スカシユリ：品種比較試験、温湯処理方法と冷蔵方法の切り花品質への影響；
- ・クルクマ：生育様相、高温・日長・温度と休眠の関係、球根の貯蔵温度と貯蔵方法の検討；

・グロリオサ：球根養成，催芽処理，栽培と球根貯蔵方法

上記の品目の実習を行い，課題により良い実績が得られ，又まだ試験中で，もっと調査が必要な種類もあります。その中で，トルコギキョウ，ワックス・フラワーはブラジルでも有望と思われる，検討に値します。

前期の研修のうち，私の要望で，当所の育種バイオテクノロジー科で，花卉類の組織培養の研修を行いました。講義を受けて，主に，増殖しにくい，又は増殖率が低いものや貯蔵方法が確立されていない品目の実習を行いました。グロリオサ・サンダーソニアの2種類を茎頂培養方法で増殖を行ったところ，増殖率が低いことから，培養方法と培地の再検討が必要でした。その他，鉢花のセントポーリアを培養して，増殖率が良く，後は培養室からグリーン・ハウスへ移動してからの生育の検討が必要でした。一番心配された培養中の汚染はほぼ解決できました。後期の研修は，主に鉢花卉類の栽培方法に関する講義と実習でした。その間，季節に合わせて，色々な品目を栽培し，それを元に，母国で栽培を行いたいと思っています。

この一年半の間，園芸学会に参加したり，又高知県内外の現地生産者や，試験場や，種苗会社の視察を行いました。視察する度，新しい情報，又は設備の観察ができて，研修の中で重要なポイントでした。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容を比較して

当初の研修計画は，大学時代での組織培養に関する知識が浅いため，日本では花卉類の組織培養技術をもっと深めようと思いました。でもすぐに組織培養の勉強に取掛らないで，切り花栽培の方から始めました。研修期間中に組織培養の勉強もでき，その他色々な切り花と鉢花の栽培技術を得ることが出来まして，思った以上にいい研修になりました。研究員の色々なアドバイスがあり，普通本や雑誌に出てこない重要な栽培ポイントを教えてくれて良かったです。

7. 本邦での生活状況

日本を訪れるのが2度目でして，こちらの生活には慣れている事から，食事・交通使用方法に関する問題はありませんでした。

来日して，同じ南米研修員との40日間の共同生活により，母国を離れた実感はなくて，ホーム・シックにかかりませんでした。その間，人間関係も深め，各国の文化や習慣や言語の違いを感じました。

研修先では，回りの人達から親切にしてもらい，又スポーツを通じて，多くの日本人の友達ができて，様々な考え方，習慣を拝見でき，当所の職員と共にスポーツ大会にも参加しました。一年半の日常生活を考えると，住んでいた寮は住宅地から離れていて，あまり商店が少ないことが不便でした。自炊が初体験でしたが，同僚の外国研修生も同じことから，共同で掃除，料理を作り，それが会話のきっかけになりました。

研修をしているだけでは，多少のストレスが溜まってきますので，同期の研修生と集まって旅行したり，又ただ集まって会話しているだけでも楽しかった。その他，テニスがもう一つのスト

レス解消法になりました。

高知県国際交流協会の招待で色々なイベントに参加したり、日本のウィンタースポーツのスキーや親戚の結婚式への出席、「よさこい祭り」への県庁チームとしての参加等、たくさんの初体験ができ、とても嬉しかった。勉強のため、日本滞在中に、旅行や見学を行い、日本の社会・文化・習慣・伝統を身につけるよう努力しました。

研修期間中3回の合同研修会に参加して、同期の研修生と会い、各々の研修においての問題点や、悩みや、経験を話せるよい機会でした。又、合同研修会は次への研修のエネルギーの補給でもあり、頑張る意識を持たせてくれました。

8. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

日本での滞在中、研修をより良く生かすには日本語を知る必要がある事が分かりました。専門用語は研修先でも徐々に覚えていけますが、普通の会話ができなければ、研修の進みは遅くなり、目的以下の研修の成果で終わってしまいます。それには、この制度に参加する方には日常に使われる日本語をこなせるのが望ましいと思っています。それについて、最初の40日間の日本語の基礎講習はよかったと思っています。一方、自分の国でしっかり日本語を勉強して、短い滞在中ですから、来日すぐに、研修先に行くことも研修になり、いいと考えます。今制度につき、特に農業関係の場合には、18ヶ月を24ヶ月コースの研修になれば、一年目は試験場や大学で勉強して、後の一年は農業生産者で実習をすることがいいと思います。そうすれば、一年を通じて同一の作物の栽培が勉強できます。

9. 帰国後の計画

母国に帰り、日本での18ヶ月の研修を生かして、最初は鉢花栽培に取り組む予定です。そのうち、設備が整った時には組織培養の方もやり始めたいです。又、滞在中の経験や学んだ事を現地で花卉類の栽培技術と高品質につながるような花栽培を普及したいと思っています。まだまだ、実際の栽培の経験がたりないので、不安も多くありますが、研究員から教えてもらった一つ一つを生かしていきたいです。

10. 所感

第21回移住子弟研修生コースに参加できてこれ程幸運なことはありません。ブラジルではまだまだ花栽培が伸びることは考えられますので、今回の研修で花卉類の栽培技術と組織培養の勉強ができ、ブラジルと日本の異なる栽培や気象条件を考えながら、帰国後花の栽培にうち込みたいとおもっています。日本での1年半は一生忘れられない体験でした。研修中に、南米研修生と出会い、一つの家族として、困ったときには助け合い、又全員が集まった時には喜びあったりしながら、研修を進めてきました。研修先では、大勢の皆様が親切にしてくれましてこれ程嬉しいことはありません。最後になりましたが、国際協力事業団の皆様をはじめ、今制度の関係者、そして私を受け入れて下さった高知県農業技術センターには、大変お世話になり、心から感謝しています。本当にありがとうございました。



1. 研修機関名及び期間

北里大学病院及び北里大学大学院看護学研究科 (感染看護学)

平成3年4月～平成4年9月

2. 受入期間 (来日日～離日日)

3. 研修科目

- 感染症及び院内感染防止対策
- 看護学及び感染看護学

4. 当初の研修計画 (テーマ, 研修内容等)

テーマ:

『病院内感染症防止対策および院内感染管理の専門看護婦
(ICN - INFECTION CONTROL NURSE)とその役割』

研修内容:

- a. 専門用語
- b. 感染関連微生物
- c. 感染を防ぐ滅菌・消毒・殺菌方法
- d. 市中および病院における感染症の発症原因ならびに流行
- e. 病院環境管理について
- f. 母子, 成人, 老人の感染症患者の治療及び看護方法
- g. 市中及び病院感染の防止予防について, 看護活動, 院内教育及び病院管理の側面から
- h. 抗生物質・抗菌剤の歴史, 投与と院内感染の関係
- i. 易感染患者の院内感染防止対策
- j. 術後創感染防止
- k. 呼吸器感染防止
- l. 血管内留置カテーテル感染防止
- m. 尿路感染と尿路カテーテル感染防止
- n. 交差汚染防止
 - 手洗い
 - 無菌的遮蔽
- o. 医療従事者への感染防止
- p. 院内感染対策における看護教育活動
- q. 院内感染対策委員会の役割

5 研修概要（具体的研修内容及び成果）

- ア. 神奈川県・横浜市・根岸・磯子区 ― 国際協力事業団「海外移住センター」で40日間の日本語研修（日本語、日本の歌、華道、書道、茶道、体育など）を受けた。日本語、日本社会あるいは文化・歴史・習慣などを少しでも多く理解し、日本での研修および生活状況に大変役立つと思われた。又、同期の研修生と知り合い、国際親善及び友情を広げる機会であると思われる。
- イ. 平成3年5月20日から北里大学病院で研修のスタート。

A. 病院での生活環境を整える

- ― 北里大学、北里大学病院及び看護部の概要理解
- ― 日本における看護教育、医療事情等について基礎知識
- ― 日本語、特に医学用語・看護用語・感染用語と漢字の読み方の学習
- ― 北里大学キャンパス及び北里大学病院及び東病院見学
- ― 研修医オリエンテーションを見学及び院内感染のテーマについての講義を聴講
- ― ビデオ学習：院内における『オーダーシステム』と『看護のための物品管理』

B. 北里大学大学院看護学研究科「感染看護学」の聴講

1. 感染防止の実践と基礎となる微生物
 - ― 感染防御の機序
 - ― COMPROMISED HOSTでの感染症
 - ― 細菌外毒素に起因する疾患の発症機構
 - ― 薬剤耐性菌出現のメカニズムとその対策
 - ― 病院内で遭遇する微生物
 - ― 真菌感染症
 - ― 感染症情報の解析からみた感染症の動向
2. 滅菌・殺菌・消毒操作に関する基礎的研究方法
 - ― 無菌法の臨床における応用
 - ― 感染症の薬学方法論を応用
 - ― 無菌法の基礎的研究方法
3. 地域及び病院における感染症の発症要因ならびに流行と母子、成人、老人の感染症患者の治療及び看護方法について
 - ― 小児細菌感染症
 - ― 感染症と抗生物質
 - ― 感染症の看護
 - ― ウイルス感染症（予防接種を含む）
4. 市中及び病院感染の防止方法について、看護活動、院内教育、及び院内管理の側面から
 - ― 院内感染防止における看護実践の問題点

- 感染防止のための環境整備とナースの役割
- 感染症防止のガイドライン（APIC）
- 薬剤耐性菌と病院内感染
- 感染管理看護の必要と思われる感染症の種類について
- 感染管理専門看護婦（ICN）の実際と教育

*北里大学大学院看護学研究科感染看護学聴講し、関連領域の知識を受け、研究的取り組みが出来るようになったと考えられる。

C. 院内各系病棟実習と関連部門の実習（実際に学んだこと）

a. 汎用消毒・殺菌薬とその特徴

- アルコール類
- フェノール類
- ハロゲン化合物
- アルデヒド類
- 4級アンモニウム塩類
- クロルヘキシジン
- ホルマリン

b. 滅菌：熱（湿熱・乾熱）

- エチレンオキサイドガス（EOG）
- 放射線（γ線滅菌）

c. 呼吸器感染防止

- リスクファクター
- 病院感染の発生
- 術後肺炎防止対策としての手術期管理
- 気管切開
- 気道吸引

d. 尿路感染防止 尿路カテーテル感染防止

e. 術後創感染防止

- 手術の除毛方法（必要性和問題点）
- 手術時手洗い（消毒薬・ブラシの使用・方法の実際）
- 手術野消毒・殺菌（方法と薬剤）
- 手術の種類についてふ感染防止

f. 血管内留置カテーテル感染防止

- 動脈カテーテル
- 静脈カテーテル

g. 交差汚染防止（環境整備）

手洗

無菌的遮蔽

手指消毒

伝染病対策

h. 医療従事者への感染防止

一般的予防対策 — 教育について

— 予防用具について

— 手洗いについて

— 妊娠している医療従事者について

— A I D E, 肝炎感染患者を取り扱う医療従事者について

針刺し事故予防

汚染物処理

ワクチン投与

i. 看護部及び看護教育における院内感染防止についての役割

j. 院内感染対策委員会

組織

院内感染サーベランス — 報告および報告書式

— 菌検索情報

— 患者情報

— 患者環境

教育活動

— 職員教育

— 指針

— 実務指導

k. 北里大学病院における院内感染防止対策の手引きについて

l. 栄養部における患者の食事について

食中毒防止対策

m. 易感染患者の院内感染防止

小児領域

内科系領域

外科系領域

熱傷患者

D. 各セクションにおける感染防止について実習と見学

ICU, CCU

呼吸器内科・胸部外科：*

救急救命センター	中央手術部*
中央滅菌材部	教育部*
輸血センター	成人病棟
腎センター	幼児病棟
NICU (新生児・未熟児室)	放射線検査室
廃棄物処理	剖検室
霊安室	薬剤部
洗濯室	外来棟

(*) 実習病棟

E. 関連領域のセミナー、研究発表、特別講義、学会等に出席

- a. 『米国の看護動向と展望』 Dr. Virginia M. Ohlson
1991. 5. 24 北里大学看護学・基礎看護学特別講義
- b. 『手指汚染と手洗』 林 滋子教授
1991. 6. 15 北里大学看護学・成人看護学特別講義
- c. 『看護教育論』 永井 俊枝教授
1991. 6. 29 北里大学看護学・臨床指導者研修会
- d. 『第6回 院内感染防止セミナー』
1991. 7. 20 東京・メディコン主催(株)
- e. 『世界エイズデー・記念シンポジウム』
1991. 11. 29 東京・厚生省講堂
- f. 『第7回 日本環境感染学会総会』
1992. 2. 7-8 福岡県・福岡市・ホテルニューオータニ
- g. 『平成3年 大学院看護学研究科感染看護学研究発表』
1992. 3. 18 北里大学看護学・第1, 2会議室
- h. 『医薬品による中毒』 堤 義明医員
1992. 3. 19 北里大学病院・医薬品副作用検討委員会
- i. 『第65回 日本産業衛生学会』
1992. 3. 29-4. 1 徳島県・徳島大医学部
- j. 『日本看護協会・通常総会・協会創立45周年記念式』
1992. 5. 13-14 東京・国立代々木競技場
- k. 『平成3年度 職員研究発表会』
1992. 6. 11-12 北里大学病院・第1, 2会議室
- l. 『私にとって看護とは?』 — 記念講演会 古庄 富美子看護部長
1992. 6. 26 北里大学病院・第1, 2会議室

- m. 『院内感染を考えるシンポジウム』
1992. 6. 27 横浜市・県政総合センター
- n. 『在宅ケアにおける感染予防対策／肝炎・MRSA・疥癬等』
環境整備課課長 酢屋 ユリ子
1992. 6. 30 北里大学病院・環境整備・第1, 2会議室

F. 病院見学（必要に応じて国内関連施設などについて）

- a. 『浜松聖隷病院』 静岡県・浜松市
1991. 7. 29-8. 24
- b. 『北海道大学医学部附属病院』 北海道・札幌市
1992. 2. 27-29
- c. 『東京都立駒込病院』 東京・駒込
1992. 7. 31

G. その他

- a. 『かながわ看護フェスティバル 92』
・看護の日・記念式・キャンドルサービス
横浜市・神奈川県立県民ホール
1992. 05. 12
・ナースユニフォームファッションショー
相模原市・ISETANデパート
1992. 05. 16
- b. 『92年国際モダンホスピタルショー』
東京・池袋サンシャインシティ文化会館
1992. 07. 10

6. 当初の研修計画と実際の研修内容を比較して

当初の研修計画として前期の半年は、日本語及び専門用語または日本の習慣、文化、考え、医療事情等について良く分からないため日本での看護活動および感染防止システムも理解するには時間がかかった。

目的のテーマの範囲があまりにも広すぎ、日本と我が国の相違もあり（文化・習慣・社会・経済的な事について）、望んでいた研修には及ばなかったが、応用への必要な基礎知識を多少学ぶことができた。

各病棟での実習には、看護業務にそって各チームメンバーと一緒に行動し、基本的な日本の看護を学び、分からないことはその場で聞き、色々な体験や経験は良い勉強になった。しかし、実習先を変わるたびにその職場で特殊用語の学習が必要であり、緊張感もあり、やっと慣れた病棟から他の病棟へ移動することは大変なことだと感じた。

各セクションでの運営、各職員・職種の役割あるいは感染防止方法における基準、日常の規則等について正しく全員が守っていることに感心した。又、「院内感染防止対策の手引き」を基礎にして感染防止対策を病院全体で行っており、このような「手引き」があることは、感染防止対策の大切な要素であると考えた。

しかし、院内感染についてサーベイランスが当院で行われていないため実践的な感染予防がどのくらい有効か無効か具体的には分かることが出来なかった。

日本の病院では、わが国と異なり、抗生物質が多量に使われていることに驚いた。抗生物質の適切な使用を検討することも耐性菌による院内感染を予防するために必要ではないかと思った。

病院施設内に位置づけられる感染看護管理専門看護婦はまだ少ないが、そのような看護婦が、やはり必要ではないかと感じた。

感染管理は複雑性や困難性が伴い、容易に確立できるものではないが、必要性を認識した上で機能でき得るシステムを作り上げて、すべての患者が、安心して医療と看護が受けられるよう努力することが大切と改めて感じた。

関連領域の学会・セミナー・シンポジウム等へ出席し、最近話題になっている感染の問題が高度なレベルで取り上げられ、日本国内の各領域からの院内感染とその防止対策をめぐる発表があり、それぞれにさかんな討論が重ねられ、全発表の内容が勉強になり、又、大きな刺激となった。

最近、問題になっている感染症（特にAIDS、C型肝炎、MRSA）について理論と実践に必要な知識を得ることができ、北里大学病院および北里大学看護学部での講演会・勉強会・研究発表・講義を聴講し、自分の専門について学べることが多かった。

INFECTION CONTROL は、あまりにも広い内容を含める問題なのでそのすべてを学ぶことは不可能であったが、看護婦および感染管理専門看護婦としての大事な心得ができ、帰国後に生かしていきたい。

7. 本邦での生活状況

この一年半は病院での寮で過ごし、必要とする家具、家庭用器具は、病院看護部研修担当者及び、前田 弘美先輩から貸して頂き、大変助かった。

初めて日本での生活には、ときめきや緊張感や不安もあり、一人暮らしの生活にもあまり慣れず、部屋での話し相手がいなかったため時々寂しく感じた。それに、日本人と南米人の習慣や文化の相違についてよく理解できなかったため、人間関係は難しく考えられた。

日系三世の私には、研修先に慣れるまでに最低6ヶ月の期間が必要であり、日本の職場での常識が分からないためどの様に対応していくべきかの判断がとて難しかった。自分の常識、習慣とあまりにも違うことは受け入れが難しくストレスの原因となると考えられた。

しかし、日本の文化および日本人の日常生活を体験することも大変いい勉強になった。治安が良い面では住みやすい国だと感じ、忙しい日本人たちを見ると住みにくいとも思われた。又、治安がよいと言っても「チカンにやられる」話は多く聞き（一回経験があった為）、一時、うす暗

くなると一人で歩くのが不安になり、嫌な気持ちであった。女性の知り合いが多いお陰でアドバイスを多く頂き、夜一人でも恐れず町の中をまた歩く事ができるようになった。

なお、南米の女性として日本での生活に女性に関する心配事は少なくはなかった。私の場合は、日本での研修（看護関係）を通して女性の友達が多くできたおかげで助かった。しかし、同期の女子研修生のことを考えると国際協力事業団の中に女性の支部担当者をもっと多く立て、相談に応じることが望ましいと思われる。

四季の変化に恵まれている日本の風土は、春と秋は大変過ごしやすく桜と紅葉は大変素敵であった。夏は蒸暑く、梅雨と台風の多い時期は速く過ぎて欲しい季節だと思った。冬の寒さには耐えきれない心配があったが、真っ白な雪を生まれて始めてみて感動し、スキーで遊ぶこともできた。一つ一つの季節に楽しみがあった。

日本では親戚になる人達も知り合うことができたが、遠くに住んでいるため、私の日本での生活には病院の皆様と特に研修指導者から大変ご親切なご協力および援助を頂き、健康にも問題なくこの一年半過ごし、ブラジルにいる家族も安心して、私が楽しく生活を送ることができたことと感謝する。

8. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

私の研修に対して基礎知識は十分に身につけることが出来たと思われる。ただ、日本での学問的な研修をするには、来日前から日本語（漢字・外来語・専門用語）と英語を学習すると、より効率のよい研修ができると考えられる。

又、日本でのナースの教育学も高度レベルにあると考えた。最近、専門学校あるいは准看護婦学校を減らし看護大学卒のナースを多く育てようとしている看護教育管理システムの考えには感心した。今後、日本へ来られる看護研修生は病院での実習だけではなく大学および大学院での学習の計画も立て、日本の看護を理論と実践的に学べばブラジルでも必ず生かすことができると考えられる。ただ、看護大学卒の研修生の場合看護大学院研究科での学習を望む者は、一年半の研修期間ではなく2年以上のコースがよいとも考える。

9. 帰国後の計画

今回の研修期間に受けた知識、習得できたことを我が国で生かし、国際医療へも貢献をしたいと考える。

日本で多少覚えた日本語も忘れないため日本語学習を継続、日系社会および今後から日本へ来られる研修生たちへの協力を実際にしてみたい。

今後わが国の病院でも適切なサーベイランスを望み、日本で学んだ基礎知識を実践に生かし、すべての患者が安全な医療と看護を受けられるようにしていきたい。

10. 所感

日本でのこの一年半を振り返ると長いようで短かった研修期間だと思われる。この中で、進歩した医療を学んだことを横の線で比較すれば充分とは言えないが、縦の線ではつまり一年半の前

の自分と今の自分を比較すると自分の専門分野にだけではなく、人生にも最も意味深い何かを得られたのではないかと考える。

この機会を与えて下さった国際協力事業団の方々を初めに、今までご指導、ご協力くださった北里大学病院の方々、看護部の皆様と北里大学大学院看護学研究科感染看護学の皆様には、感謝している。

特に、北里大学病院では研修指導者「藤田 恵子科長」に恵まれ、研修前期から後期まで研修及び生活にもついて適切にご指導とご尽力を頂き、心より感謝の意を表する次第である。

なお、家族および婚約者からの応援、遠くにいても励ましてくれたことには、感謝している。

田中庸巻セルジオ
ブラジル（モジ・ダス・クルーゼス）



1. 研修機関及び研修期間

- (1) 香川県農業試験場
3年5月～4年3月
- (2) 高知県農業技術センター
4年4月～4年9月

2. 受入期間（来日日～離日日）

3. 研修科目

花卉栽培技術そして花卉類の組織培養技術

4. 当初の研修計画（テーマ、研修内容等）

ブラジルでは農業試験場、大学の農学部などでは普通作物についての試験研究が多く、花卉類に関しては研究が少なく、特に花卉品種改良研究は極めて少ないので日本で研修を受けて技術を習得することが必要だと思いました。

計画は花卉類の栽培技術、鉢物を中心として栽培実験、講義及び再マイクロプロセッサ倍実習そして、花卉類の品種改良、交配技術と組織培養技術でした。

5. 研修概要（具体的研修内容及び成果）

平成四年四月から五月十五日まで横浜市にある国際協力事業団海外移住センターで他の子弟研修員と共に日本語の講習を受けて日本語はもちろん、その他に日本の文化、習慣について色々学んで、歌、華道、茶道、書道などを少しでも経験することができました。私は日系三世にあたりますので家庭の中ではほとんど日本語を使っていませんでした。ですから、私にとってはその一か月半の日本語講習は大変役に立ちました。

平成四年五月十八日から香川県高松市の香川県農業試験場で研修が始まりました。その試験場

では生物工学担当として短期研修の形で花卉担当で研修を受けました。

生物工学担当では花卉、果樹、野菜などの植物を使って人為突然変異、組織培養実験などを行っているのですが、それを手伝いながら花卉類、ガーベラを中心として自分の組織培養試験も行いました。その他に茎頂培養、組織培養で得られた植物の鉢上げ、移植なども行って比較試験又は調査などに協力しながら色々学ことができました。

研修の最初の二か月間は組織培養に関する資料を集めて勉強したり、実際には植物ホルモン剤、無機栄養素、ビタミン類などをしていろいろな種類の培地も作りました。組織培養はカーネーションの茎頂培養を練習として行いました。

カーネーションは普通挿し木で増殖することができますが、つぎつぎに増やすと病気、特にウイルスが伝染されます。植物の生長点はウイルスフリーの部分なのでそれを材料として茎頂培養を行い、増殖して無病苗を得ることができました。

ガーベラは増殖を目的として組織培養実験を行いましたが、ガーベラの場合は生長点を材料にしますと母株を失ってしまいますので材料として花床を使いました。花床は直径0.5 から1.0 cmの蕾からとりました。その蕾は最初土に接触しているので材料のコンタミも重要な問題でした。結果としてはガーベラの花床培養の基本的な方法が分かりました。

花卉担当では切り花を中心として試験を行っています。私はいろいろな切り花類の栽培実習並びに交配などを行いました。切り花類の中ではキク、カーネーション、ユーチャリス、トルコギキョウ、マーガレット、アルストロメリアなどが栽培されています。カーネーションの場合は香川県農業試験場で何年前から品種改良されているので交配技術を習得することができました。

その他に見学して花卉類を栽培している農家、農園を視察しました。園芸学会、花卉生産者大会などにも参加して色々な知識を得ることもできました。

四月の合同研修会が終わってから私は新しい研修先へ移りました。

平成四年四月六日から高知県農業技術センター花き科で研修が始まりました。花き科では切り花類に関する研究が多く、その講義並びに栽培実習を行いました。栽培実習では播種から収穫までの管理を行い、各品種の特性と生育、開花に必要な条件、管理方法が分かるようになりました。

切り花の中では宿根かすみ草、ソリダスター、スターチス・シヌアーク、トルコギキョウ、グロリオサ、ワックスフラワー、サンダーソニア、チューリップ、スカシユリ、クルクマ・アリスマチフォリア、マーガレット、宿根性スターチスなどが研究されているので、研修の内容にもなりました。

その他に鉢花類も播種、定植等栽培実習を行いました。その鉢花類の中ではグロキシニア、ゼラニューム、矮性百日草、矮性ヒマワリ、シザンサス、矮性アスター、矮性金魚草、トレニア、けいとうなどの栽培を行い切り花と鉢花との栽培管理の違いが分かりました。トルコギキョウの場合は生育特性についての講義を受け、2度切り栽培の管理を行いました。1、2月出しの栽培方法では一度1、2月に花を切ります。そして残った茎から新芽がでるので、芽かきを行い、一

本残します。それが4、5月に咲き、再び花を収穫しますのでその栽培方法が二度切り栽培と名付けられています。1、2月出しの栽培方法では播種が8月に行われ、真夏で高温がロゼット化の原因になるので高知県の場合はクーラー育苗をやっています。その育苗の準備、実習も行い農家の育苗方法も視察しました。

スターチス・シヌアータについては、現地視察そして開花生理についての講義を受け、播種と種子冷蔵を実習しました。

高知県では鉢花を栽培している農家、農園は極めて少ないので県外へ出て日本の先進鉢花農家を視察してその技術を習得するために、七月下旬長野県、山梨県の鉢花農家及び種苗会社（サカタのタネ、ミヨシの種苗、第一園芸）を視察研修し、とても良い勉強になりました。この一年半の研修を振りかえってみると習得したのは技術だけでなく日本語、習慣などそして友達も、ですから私にとってはこの研修は一生忘れられない経験でした。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

私がブラジルでJICAの試験、面接を受けたとき日本で鉢花栽培、花卉育種、品質改良を勉強する計画でした。

香川県農業試験場では残念ながら鉢花の研究は行っていませんので栽培技術は切り花の面で研修しました。鉢花については本又は雑誌、資料を集めて勉強しました。その他に鉢花専門農家をいくつか視察しました。

花卉類の育種と品種改良のうち鉢花の実験とか育種は研修先ではなかったです。勉強になったのはカーネーションの交配実習そして生物工学担当で行われていた組織培養実験と人為突然変異に関する実験の研修でした。

高知県農業技術センターでも切り花類に関する研究が多いので切り花類について講義及び栽培実習を行いました。それと同時に鉢花類の試験栽培、栽培実習を行うことができて花卉栽培技術を鉢花と切り花の面で学ぶことができました。高知県では花卉類の育種と品質改良については研修できませんでした。

7. 本邦での生活状況

私にとっては海外移住センターでの一か月半は色々役に立ちました。海外移住センターで他の研修員、先輩達もいたので皆が助け合って日本の生活に慣れることができました。

人間関係について、私は友達をつくるのが好きなので問題はありませんでした。そしていろいろな機会があったので友達をたくさんつくりました。最初から日本人の考え方を理解できるように心掛けたのが一番大切だったと思っています。

香川県高松市で私はワンルームマンションに住んでいました。場所は駅そして商店街から近かったのでとても便利でした。最初部屋にはなにも無かったので家具揃えが大変でした。食事については大学時代も自炊していたので困りませんでした。その他時々外食もしていました。

高知県では高知県農業技術センターのなかにある寮に住んでいました。その寮は商店街、スー

パーなどからはなれているので花き科から自転車を貸してもらって大変助かりました。その寮も自炊なので家具全部揃っています。そして同じ寮にJICA研修員の高橋君がいるので色々楽しくやりました。

8. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

各研修員が望んでいる科目内容、目的を良く理解してそれに適する研修先をできる範囲で探してほしいです。科目によって難しいと思いますがそうすれば研修員がもっと良い成果を上げることができると思います。

研修先を両親の出身地の近くで探すことは場合によって良いと思いますが、第一は研修科目だと思います。

研修員で日本は初めてという人がかなりいると思いますので、せっかくですから日本を代表する観光地をできるだけ回れば良いと思います。研修旅行が大事だと思います。

研修員が母国でしっかり日本語、特に会話、挨拶などを勉強しておくことが良い研修成果を上げるために大切だと思います。

9. 帰国後の計画

私は帰国後この一年半研修を受けて習得できた技術などを自家の花卉栽培に生かしたいです。香川県農業試験場、高知県農業技術センターで研究員達から教えていただいたことを身につけて花卉栽培、最初は鉢花類そして花卉類の組織培養の方にも取り組む計画です。その他に花卉生産者協会及び日系社会の発展に貢献したいと思っております。自信はありますので頑張りたいと思っております。

10. 所感

私は来日するのが初めてなので、日本へくる前ずいぶん期待していました。祖父母をはじめ先生、友達又は先輩たちから日本についていろいろな話を聞いたので、自分が日本で研修を受けて、生活してその経験を積むことが大切だと思いました。

日本へ来てから印象的なものにたくさん出会いました。治安が良い、人が親切、交通機関が便利だし、とても暮らしやすい国だと感じました。最初の一か月半海外移住センターで他の研修員達と共同生活を行い皆お互いに助け合い日本での生活に慣れることができとても良かったと思います。

この一年半、このように研修させていただき国際協力事業団をはじめ私を受け入れてくれた香川県農業試験場そして高知県農業技術センター、関係者の方々に深く感謝申し上げます。私にとってはこの上もない幸福そして光栄に存じます。一生忘れられない経験でした。



1. 研修機関及び研修期間

(1) 国立身体障害者リハビリテーションセンター

1991年5月～92年3月

(2) ボバース記念病院

1992年4月～92年9月

2. 受入期間 (来日日～離日日)

3. 研修科目

理学療法 (主に対麻痺, 四肢麻痺, 脳卒中, 脳性麻痺児, 視覚障害者に関するリハビリテーション)

4. 当初の研修計画 (テーマ, 研修内容等)

交通事故等により, 傷害を受けた人 (対麻痺, 四肢麻痺患者), 又, 脳性麻痺や成人の脳卒中や, うつ病等, 精神的, 肉体的な障害を持つ人々のリハビリテーション。

又, 出来れば, 呼吸器官の理学療法や整形・形成術等の見学。

5. 研修概要 (具体的研修内容及び成果)

期間: 1991年5月～1992年3月

a. 国立身体障害者リハビリテーションセンターでの研修は下記の通りです。

・第26回日本理学療法士学会に参加, 倉敷市 91/5/23, 24

テーマ “科学からのメス”

・病院内のスポーツセラピー, 作業療法, 言語療法, 義肢装具の制作や修理, ロービジョン訓練部門の見学

・脳出血による右片麻痺患者の治療開始

・第5回日本車椅子頸損バスケットボール選手権大会に参加, 神奈川県 91/6/30

・交通事故による対麻痺患者の治療開始

・労働災害による対麻痺患者の治療開始

・病院のケース会議で担当している患者について報告

・LOW VISION CLINIC で視覚障害者ORIENTATION AND MOBILITYについての研修, 91/9/～92/3

・視覚障害者のA D Lの訓練及び補助機器の見学

・国立身体障害者リハビリテーションセンターの理学療法士研修会に参加, 91/10/28～91/11/1

テーマ “頸髄損傷者のP Tアプローチの実際”

・全盲と肢体不自由のダブル障害を持つ患者の治療開始

・ポリオ術後患者の治療開始

- ・当センターで行ったARTHROKINEMATIC APPROACH(AKA)の研修会に参加
- ・第17回感覚代行シンポジウムに参加, 東京 91/12/3
- ・第8回国立身体障害者リハビリテーションセンター業績発表会資料に参加
- ・LOW VISION CLINIC でブラジルの低視力患者の面接と評価を聞き, 通訳
- ・心理部門でI. Q. テストの見学
- ・ダブル障害患者のミニカンファレンスに参加
- ・LOW VISION CLINIC で低視力社に対する訓練の見学
- ・第4回埼玉県障害者スキー教室要綱に参加, 群馬県 92/3/6~8
- ・平成3年度学術局研修会で患者について発表, 埼玉県 92/3/15

症例報告 “視覚障害を伴う脳出血術後左片麻痺の理学療法とオリエンテーション・モビリティ訓練について”

国立身体障害者リハビリテーションセンターの研修の成果については, 最初は, 患者とのコミュニケーション, 人間関係が出来るまで時間がかかりましたが, 少しずつ慣れて来て, 毎日の訓練が早かったです。

治療自体のやり方は, ブラジルで学んだ事とは, あまり変わりなかったとも感じましたが, 当センターで行われた“頸髄損傷者のPTアプローチの実際”の研修会に参加できて, とても良かったと思います。

思ったより, 勉強になったのは, 他の部門で見学をした事です。そして, 障害児達とスキーに参加出来たのも, とても参考になりました。

当センターで視覚障害者のORIENTATION とMOBILITY訓練について研修が受けられたのは, ブラジルで学んだ事を深く勉強できたので, とても良かったとおもいます。そして, 肢体不自由と視覚障害を持った患者の治療を行って, PTが視覚障害者に対するリハビリテーションを理解する事がどれだけ必要か考えさせられました。とても良い経験になりました。

b. ボバース記念病院での研修は下記の通りです。

期間: 1992年4月~1992年9月

- ・ボバース記念病院の新人職員研修プログラム(成人脳卒中と脳性麻痺児に対する講義と実技)に参加
- ・治療場面の見学をしながら, 実際に7人の患者の訓練開始(成人脳卒中4名-右片麻痺2名と左片麻痺2名, 脳性麻痺児3名-痙直型四肢麻痺児1名と痙直型両麻痺児2名)
- ・小児グループ(レクリエーション)とケース会議に参加
- ・第27回日本理学療法士学会に参加, 長崎市 92/5/14, 15
テーマ “移動と理学療法”
- ・担当している脳性麻痺児の手術(BILATERAL ADDUCTORS TENOTOMY, PSOAS ANTERIOR TRANSFER)見学

- ・担当している脳性麻痺児についてCASE STUDYで報告
- ・星ヶ丘厚生年金病院の見学
- ・大阪市身体障害者スポーツセンターの見学
- ・兵庫県リハビリテーションセンターの見学
- ・大手前整肢学園の見学 (VOJTA 法)

ボバース記念病院での研修成果については、短かった研修期間で、新しい研修先のシステムに慣れるまでに時間がかかりましたが、ボバース法に関して色々と学べたと思います。

講義を受けてとても良かったと思いますが、自分自身の日本語能力が不十分なので、100%の内容が理解できなかったのは、残念でした。でも、時には、英語で説明してもらったり、英語の専門用語も多かったので、解かり易い場合もありました。

最初に一番むずかしいと感じたのは、講義で聞いた事を実際の治療場面で、患者のHANDLINGに応用する時でした。そして、実際に与えられたHANDLINGがどんなように患者に対して結果として見られるのか？ それを評価する事がむずかしかったです。

患者についてのレポートを書く時、説明する時にも言葉の問題でこまりました。何でも、考えれば、考えるほど、むずかしいと感じました。

他の病院で見学して参考になったのは、四肢麻痺患者の呼吸に関するリハビリテーション、視覚障害者に利用されるスポーツ等(卓球、バレーボール、水泳)、INTELLIGENT ABOVE-KNEE PROSTHESIS、半らせん型装具、イリザロフ創外固定器の使用等が見られた事です。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容を比較して

最初の研修計画と実際の研修内容を比較すると、一番に希望していた対麻痺、四肢麻痺、脳性麻痺や成人の脳卒中に対するリハビリテーションに関しては、研修を行った国立身体障害者リハビリテーションセンター、及び、ボバース記念病院で勉強できました。

日本での研修期間も終わりに近づいて、自分自身の日本語のレベルがもう少し高ければ、説明、学会等の理解力も良かったと思いますし、具体的に本なども読めたと思います。その点、物足りなかったと思います。

他の病院に関しては、あまり、見学をする時間がなかったので、残念だと思いました。慣れた研修先ですごすのとは違い、一日の見学、あるいは、何回かの見学では、まとめて質問が出来るので、それも一つの研修になると感じました。

大学を卒業して、すぐ、外国で研修するよりは、ブラジルで2～3年働いてから、ある程度の臨床経験を持っていた方がほんとうの研修になるのではないかと思いました。卒後間もなくだと、聞くばかりで、あまり、母国について話せないのも、一方的になってしまった事もありました。

視覚障害者に対するリハビリテーションは、最初の計画には入っていなかったけれど、国立身体障害者リハビリテーションセンターで歩行訓練士の先生に出会えて、ブラジルで習った以外の事を学ぶチャンスがありました。大学では、視覚障害者に対する色々な白杖歩行のテクニック、

階段の昇降、コントラスト等について、具体的に勉強をしていなかったのも、とても良かったと思っています。そして、研修のために作っていただいたマニュアルと歩行訓練テクニックについての写真等も、ブラジルに帰ってからも、大変、役に立つと思います。

残念ながら、うつ病等、精神的、肉体的な障害を持つ人達のリハビリテーションは見られませんでした。

呼吸器に対するリハビリテーションについての研修は、具体的に出来なかったけれど、ブラジルと日本の医療システムの違いに関しては少しは、理解できたと思います。例えば、日本では、相手に風邪をうつさないようにマスクをかけて予防をしますが、母国では、あまり、見られません。日本みたいに、みんなが予防すれば、呼吸疾患も少なくなって来るでしょう。

日本では、呼吸機器の操作が出来るのには、MEDICAL ENGINEERING の資格が必要ですが、ブラジルの呼吸理学療法士は病院によって、医者からだんだんと機器の操作もしなければならぬと励まされている場合もあります。

7. 本邦での生活状況

研修期間中は、ずっと、アパートで一人暮らしをし、慣れるまでに時間がかかり、最初の3ヶ月間は、なかなか眠れなかった。多分、初めて家族から離れて生活したので、どんな安全な日本にいても、不安と緊張が多かったと思います。

母国ブラジルとあまりにも違う習慣、文化、考え方を持っている日本人達と一緒に生活をするのは、自分自身、日系人でも、最初は、大きなショックを受けたと思う。例えば、子供のころ、両親や日本語学校で習った事、日本人について聞いた話を実際に日本に来て見ると、そうではなかったと確認すると、私達に教えられた日本は、もう、ずっと前から違っていて、幼い時から持っていた日本のイメージも、場合によっては、くずれてしまいました。良く言われたのは、私達、日系の方が日本人よりも日本人らしい考え方、やり方を失っていない事でした。そして、今まで持っていたイメージは、戦争時代のもう見られない日本です。でも、何十年も前に外国に移民して行った日本人達には、古い日本は、まだ、心の底に強く残されていると思います。

今でもびっくりするのは、ブラジルでつかわれている日本語の言葉が外来語になっている事です。ちゃんとした日本語があるのに、なぜ、日本人は発音の違う英語にしてしまうのか、ふしぎでたまりません。(例：もも色→ピンク、ちょうめん→ノート、てぬぐい→タオル、切る→カット等)日本人の英語の発音に慣れるまで、大変でした。

子供のころから、日本人の顔をしていない人々が多い国で育ったせいかな、日本に来て見ると、みんな同じような顔をして、恰好も同じで、あまり目立たなく、一人一人の個性もあらわれないと感じました。そして、日本人は、いつもグループの一員として考えるので、ディスカッション等の時に、自分の意見をはっきりさせない場合が多いと思いました。

日本に来てから、じんましん、甲状腺機能亢進症等、色々な身体的、精神的な問題が起こり、特に横浜の海外移住センターから研修先に移って、ひどくなり、ストレスの解消方法を見つけ出

す事が必要だと痛感した。

前期・後期とも住んでいたアパートが病院から近かったので、大家さんに借りた自転車、又は歩いて通った。埼玉県から大阪に研修先が変わる時期は、研修報告のまとめや発表、引っ越しの準備等で最も忙しかったので、自分のプライベートな時間を守る事が本当に大切だと思いました。

8. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

- ・出来れば、前もって専門用語を日本語、外来語で勉強しておく事。
- ・研修先とか友達と自分の立場、意見をはっきりしておく事。
- ・上級研修生のように、日本にいたる間、会を作った方がJICAの皆様との連絡等も、今より、簡単にとれるようになると思われる。そして、グループとしてまとまりやすいと思う。
- ・保険とか研修費について、色々な問題があったため、JICAからの情報を明確にもらえれば、ありがたいと思われる。病院によって、診察してもらえなかったり、時間がかかったりしました。でも、ほとんどは、研修先の病院で治療できたので、助かりました。
- ・研修先が変わってから、学会等に参加する場合は、全く使用できなかったのも、とても不便でした。

9. 帰国後の計画

ブラジルに戻ったら、できるだけ、多くの症例が集まっている病院あるいは、リハビリテーションセンターに勤めて、障害者達のために、今まで研修して来た事を、実際に使って、治療の技術を少しづつ高めて行くつもりです。

そして、日本で学んだ事を、なるべく多くの人に伝えたいと思います。

簡単には、ブラジルの医療システム、経済的な問題等は変わらないと思いますが、なるべく大勢の障害を持っている人が適切なリハビリテーションプログラムが受けられるように専門家として努力して行きたいと思います。

10. 所感

一年半の日本での研修期間をふり返って見ると、長くて短かったと感じています。楽しい事やつらい事、色々ありましたが、大勢の人に励まされて来たのも、この夢が実現出来るようにとても大切だったに違いありません。私の専門分野だけではなく、ブラジルと日本の社会的問題、文化の習慣等の違いを毎日の生活の中で経験できた事は、私の人生においても、良い勉強になったと思います。

日本での研修を終えても、これから先、ブラジルと日本の交流が出来るだけ、続けられれば、本当に幸いだと思います。

最後に、日本で研修が出来るチャンスを与えてくれた国際協力事業団の皆様にご礼申し上げます。国立身体障害者リハビリテーションセンターとボバース記念病院の先生方には、長い間、色々とお世話になり、心から感謝しております。そして、いつも見守ってくれた家族、友達にも感謝しております。

ブラジルとは異なった日本での生活や、日本での研修を通してめぐり会った人々の事は、一生、忘れる事はできないでしょう！

どうもありがとうございました!!!

土井ローザ雅江
ブラジル（サンパウロ）



1. 研修機関及び研修期間

ユニバーサル電子計算株式会社

平成3年5月～平成4年9月

2. 受入期間（来日日～離日日）

平成3年4月～平成4年9月

3. 研修科目

コンピュータ（システム・エンジニア、ソフトウェア開発）

4. 当初の研修計画（テーマ、研修内容等）

最初の研修計画として、私が希望していたのはSE（システム・エンジニア）の勉強だった。その中の主にシステム開発、ソフトウェア開発の方を学ぶ予定であった。

日本でのSE（システム・エンジニア）としての一からの勉強、システム設計の手順などを詳しく勉強する事を希望して来た。

コンピュータについての技術を身に付け、日本で学んだ事を将来役に立つような研修を目的として来日した。

5. 研修概要（具体的研修内容及び成果）

日本に来日して最初の1ヶ月半は横浜市にあるJICAの海外移住センターでお世話になり、色々和日本について、歴史、地理、習慣、又はこちらでの生活などに付いて学んだ。

5月の中旬より、コンピュータの研修を行った。

具体的な研修内容としては：

- コンピュータについての基礎知識
- ソフトウェア、ハードウェア等の勉強
- プログラム言語
 - ・ C言語
- O.S.（オペレーティング・システム）
 - ・ UNIX
 - ・ APPLE TALK
- データベース

- ・基礎知識
- ・データベースを使用してのネットワーク化（データ通信）
- ・データベース言語
- ・特定のデータベース（dbMAGIC）を使用してのシステム作成
- システム設計
 - ・基礎知識
 - ・内部設計
 - ・外部設計
 - ・プロジェクト管理
 - ・要求定義
 - ・ファイル設計
 - ・レイアウト設計
 - ・プログラム設計
 - ・システム仕様書
- データ通信
 - ・データ通信全般
 - ・通信方式の基礎
 - ・通信手順（プロトコル）
 - ・データ通信のための規約
 - ・ISOのOSI 7レイヤー
 - ・LAN
 - ・LANの概要
 - ・NETWARE
 - ・簡易LAN
- システム作成
 - ・dbMAGIC（データベース）を使用しての人事情報システム
 - ・マニュアル作成
- OAショー見学
 - ・ビジネスショー
 - ・日本テレコム
 - ・データショー
 - ・NECパソコンフェア
 - ・NTTコレクションフェア
- セミナー参加

- ・CASIO人事管理システムセミナー
- ・NEC人事システムセミナー
- ・日本ユニシス UNIX通信セミナー
- ・dbMAGICアプリケーション開発技法セミナー
- ・マクニカネットワークフェア データ通信セミナー

— 工場見学

- ・東芝科学研究所
- ・NISSAN追浜工場
- ・北芝電気
- ・オリンパス光電子工場

この1年半、色々と学ぶ事が出来、理論的に勉強した事を使ってシステムを開発する事も出来た。このシステム開発の時点では、システム設計の段階で学んだ事を使用し、SEの勉強にもなった。

研修期間の後期では、希望したデータ通信の方を理論的に学ぶ事が出来た。

又、色々なOAShow、セミナー、工場見学などに参加する事が出来、日本の新しい技術など、コンピュータについての総合的な知識を身に付ける事が出来た。セミナー参加については、当時勉強していた研修内容についてのセミナーに参加させて頂き、色々と学ぶ事ができた。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

研修先での最初の3ヶ月間は、既に本国で教わっていた基礎的な事を勉強し、又は理論的な事ばかり学んだので、ちょっと物足りなかった。

システム開発については、一応計画通り学ぶ事が出来たけれど、やはり理論的な事ばかりだったので開発手順などが余り良く解らなくてちょっと戸惑った面もあった。

全体的に希望した事を勉強することは出来たけれど、研修先での研修計画が無かったため、又もっと実用的な勉強をすることが出来なかったので、希望した研修とはちょっと違ったような気がした。

7. 本邦での生活状況

日本にきて最初の1ヶ月半は、横浜の海外移住センターで色々と日本の生活について教わった。とても楽しく過ごす事ができ、又日本の習慣などに慣れるのにとっても役立った気がする。

後の研修期間は東京のアパートで一人暮らしをした。最初はアパートの家具揃えなどがちょっと大変だった。又東京でのアパート暮らしは物価がとても高くて毎月の生活がとても厳しかったけれど、徐々に慣れた。

その他は別に問題なく、とても楽しい研修期間を過ごす事ができた。

研修先では皆さんからとても親切にいただき、沢山の友達もできて、勉強面だけではなく色々と教わり楽しく過ごす事ができた。

1年半の間沢山の友達に恵まれ、スキー、海、遊園地、旅行など色々な所に遊びに行ったり、日本でしか経験できない事を沢山学び、とても良かったと思う。

8. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

自分の研修目的をはっきりさせ、研修先でちゃんと指導者と相談した上で自分の計画を立てる事が大切だと思う。何か学びたい事、又は解らないことがあれば恥ずかしがらずに自分から進んで積極的に言う事。

出来るだけ早く日本の生活に馴染み、日本人の考え、習慣などを理解して沢山の友達を作り、楽しく過ごし、研修面だけでなく、色々と日本で勉強して経験を積んでいくと良い。

悩み事、問題などがある場合一人で悩まず、友達に相談すると良い。又、ストレスなど溜めないように、本当に理解しあえるような友達を作り、お互いに話し合うと良い。

9. 帰国後の計画

帰国してからは、日本での1年半の研修で学んだことを生かした仕事をしたいと思っている。ただ実際にこちらでSE（システム・エンジニア）について勉強した事が国で通用するかという不安があり、又理論的な事ばかり勉強したので、実際に何処まで身に付ける事ができたか良く解らない点もある。

システム・エンジニアとして頑張り、その中でもデータ通信を主に取り入れ、これからのブラジルのために一生懸命努力したい。

日本で学んだ事を、これからのブラジルでの生活に役立て、国の発展、又は日本とブラジルの交流を保つように努力したいと思っている。

10. 所感

日本みたいに発達した国でコンピュータの勉強をすることができ、とても良かった。一応希望していた研修をさせて頂き、国際協力事業団の皆さん、そして研修先の皆さんには感謝しています。

研修内容は別としてこちらで色々な経験を積み、とても勉強になったと思います。本当にコンピュータの勉強だけでなく、これから私が歩いて行く人生の中で必要な事を色々と経験し、人間として生長する事が出来たのが一番良かったと思います。

色々な人と知り合い、沢山の友達ができたことをとても嬉しく思っています。

とても楽しかった日本での一年半は、私にとって一生忘れられない期間となり、又とても大切な思い出となることでしょう。本当にこちらで色々とお世話になった皆さんには感謝の気持ちで一杯です。どうも有り難う御座いました。



1. 研修機関及び研修期間

- (1) 千葉県白子町 (農家実習1)
 平成3年6月～平成3年12月
- (2) 岩手県盛岡市 (農家実習2) (㈱サン農園)
 平成4年4月～平成4年9月

2. 受入期間 (来日日～離日日)

平成4年4月～平成4年9月

3. 研修科目

農業研修 (野菜栽培)

4. 当初の研修計画 (テーマ, 研修内容等)

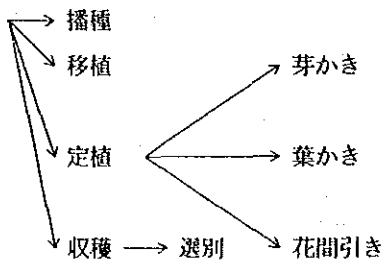
- 1. 施設栽培
- 2. 露地栽培
- 3. 接ぎ木

5. 研修概要 (具体的研修内容及び成果)

1. 平成3年5月16日～12月25日

千葉県白子町 (農家実習1)

水耕栽培 (ミニトマト)



2. 平成4年1月13日～3月21日

長野県野菜花き試験場

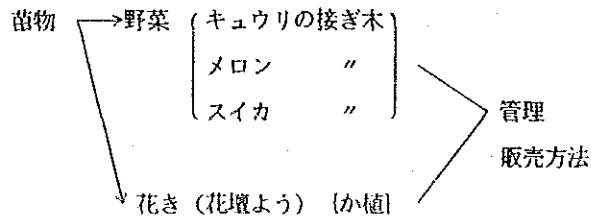
専門用語, 学理 (野菜)

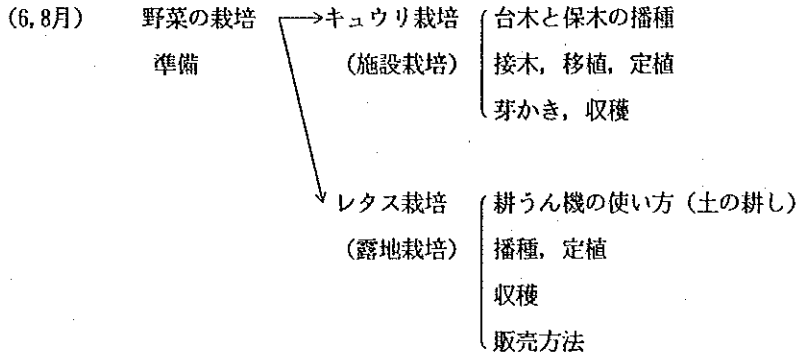
3. 平成4年4日～9月12日

岩手県盛岡市 (農家実習2)

有限会社サン農園

(4, 5, 6月) 苗物





6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

当初の研修計画

施設栽培 → 連作障害を回避する為の方法
 ↓ キュウリの接ぎ木 (接木苗の管理)

露地栽培 → 元肥と堆肥の使い方

農家実習や試験場では、計画していた以上の内容について研修ができました。実習している期間、次から次と自分の参考にしたい部分が表れて、もっと勉強したり、詳しく知りたい部分があって当初の計画を作りなおしました。

7. 本邦での生活状況

農家に実習をしている間、初めのうち、気をつかって、遠慮したり、無理をして6:00から19:00の実習が終了した後とか、昼休み時間、食事の間休まず家の手伝いをしていましたので体の調子をくずしてしまいました。

けれども体の調子をくずしてから実習の後、休み時間にはマイペースでやっていました。そして週一回華道と習字を習いに行きながら息抜きしていました。

8. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

農家実習をする場合

農家の経済は大体から計画されておりますので、早めにきめることをおねがいします。

急に「研修生を受けてください」とたのまれると受け入れの方は困ることも多いし、特に忙しい時期だと、研修生の計画が入っていないため見学や勉強する時間が少なくなってしまうと思います。

9. 帰国後の計画

帰国してから農大でもっと勉強して、日本で学んだテクニックなど国で適応して見たいと思っております。

そして後3年間ぐらい経済と経営の部門も農業に必要ながあるので勉強したいと思っております。

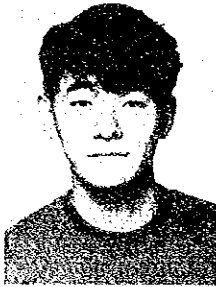
10. 所感

野菜栽培の研修について

この1年半の期間、思っていた以上の研修が出てとっても参考になりました。

けれど後5年、10年、苗作りは別として、野菜栽培してる農家は少なく、年よりの方が多いし、兼業農家がだんだんに増えていますので、外国に追いこされると思います。

高橋ジョージ高志
ブラジル(カノイニナス)



1. 研修機関及び研修期間

(1) 静岡県小笠郡大東町(松本恵次様方)

1991年5月～1991年12月

(2) 長崎県南高来郡瑞穂町(俵正彦様方)

1992年4月～1992年9月

2. 受入期間(来日日～離日日)

1991年4月～1992年9月

3. 研修科目

施設(メロンとトマト)と露地(じゃが芋、大根)野菜栽培

4. 当初の研修計画(テーマ、研修内容等)

野菜の施設と露地栽培に使われている技術や苗作りから出荷までのサイクルを実習し、農家、特にじゃが芋、がどんな経営を(雇用労働の使い方、考え方や計画の立て方など)しているかを見習い、自分の知識や経験を広めることでした。

5. 研修概要(具体的研修内容及び成果)

(1) 静岡県大東町

メロンとトマトの栽培方法あまり変わらないので、まとめて次の実習をしました。

種蒔き、移植、接ぎ木、水掛け、定植、追肥、誘引、芽掻、交配、消毒、摘花、摘芯、収穫、選別、箱詰め、出荷

メロンの仕事はまったく始めてで、研修以外の時間に近所の農家を見学したり、大東町国際交流センターに参加して、色々な国の人達と町の人々と交流が出来て、良い勉強になりました。

*平成四年の一月十三日から三月の末まで長野県野菜試験場で野菜の勉強をしていました。

(2) 長崎県瑞穂町

じゃが芋と大根の露地栽培の研修をしました。

— じゃが芋の主な仕事 :

土地の準備(フレルモア、ロータリ、肥料ふり)、植え付け、畝上げと土寄せ、草取り、収穫、選別、箱詰め、出荷と販売。できるだけ無農薬な作物を取るため、消毒はほとんどしないのです。

一 大根の主な仕事：

種蒔き、間引き、消毒、トンネルやマルチの片付け、秋作の土地の準備、収穫、荒い選別、ビニール袋や箱詰め、出荷。

大根もじゃが芋も全部契約で出しています。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

希望通り、施設野菜とじゃが芋の栽培が見れたので、満足しています。

日本でじゃが芋農家を見つけるのは難しいことだと思っていたが、日本でびっくりする程の大きい農場に入れたため、栽培方法にしても、経営的にしても、とても良い勉強になりました。

7. 本邦での生活状況

私はほとんどの研修期間は農家でホームステイでしたので、料理作りとか、洗濯することがそんな面では楽でした。

この一年半の間、色々な場所で（静岡、長野と長崎）研修したのは良かったが、それぞれの地域では大分変わった方言を使うので始めの頃はよく困っていました。

休みの時は卓球の練習をしたり、ブラジルでできないスキーも何回かやったり、友達に電話したりしていたのでホームシックにならないで済みました。

8. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

日本で一番困るのはやっぱり日本語の読み書きなので、できれば研修生全員が海外移住センターの一月半の日本語の講習を受けた方が良いと思います。日本語や日本の文化、習慣、歌や歴史などの勉強だけではなく、同じ仲間と知り合って、相談に乗れる友達を一杯作る大事なチャンスです。

皆、色々困ったこととか、悩み事があるので、全員合同研修会に参加してもらいたいです。

そして、それぞれの研修でつかわれる専門的な言葉、自分の国のことと研修される地方の方言を知っておいて来ること。

9. 帰国後の計画

自分達の農場を手伝いながら経営大学に通いたいと思っています。

じゃが芋、大蒜と色々な穀物はしばらく今のままで続けますが、肉牛は今と違って、「部屋」の中で飼うシステムにしたいのです。

そしてまだ大分勉強してから、一番問題になっている、雇用労働者の使い方をなんとかするにはならない私です。

10. 所感

日本に来て、友達一杯作って、想像していた以上良い研修になったので、とても嬉しく思っています。

この一年半の研修期を与えて下さった国際農業者交流協会と国際協力事業団の方々、大変お世話になった農家の方々、色々教えて下さった、長野県野菜花き試験場と鯉淵学園の先生方と、

研修生の皆さんに心から感謝とお礼を申し上げます。どうもありがとうございました。

研修生の皆さん、これからもお互い頑張りましょうね！

豊原憲二エジソン
ブラジル（マルアルバ）



1. 研修機関及び研修期間

(1) 施設野菜（苗物）

1991年5月～91年12月

(2) 果樹（ブドウ栽培）

1992年4月～92年9月

2. 受入期間（来日～離日）

1991年4月～92年9月

3. 研修科目

- ① 中込種苗店方施設野菜（苗物） 91年5月～91年12月
- ② 長野県果樹試験場（果樹、なし、ぶどう、もも） 91年1月～3月
- ③ 根津勝利様方（農家）果樹（ぶどう栽培）

4. 当初の研修計画（テーマ、研修内容等）

先進国である日本で、ぶどう栽培技術を学び習得することと、農家での文化、生活などを自分の目でたしかめることでした。

5. 研修概要（具体的研修内容及び成果）

5月～12月 施設野菜（野菜苗物）と花（切り花と鉢物）

→施設野菜にとっては、もう終わりでしたので、収穫の時だけ手伝いました。

→花 ポッド土入れ、種をまいたり、水をかけたり、ポットに苗を植えたりと収穫。

切り花には、毎日水をかけたり、花を切ったり、LL, L, M, Sサイズに分けて収穫しました。

1月～3月 果樹試験場

試験場では主にやった事は、ぶどう、なし、もも、の自習せん定をやりました。

4月～9月 果樹（ぶどう栽培）

ぶどうのめかぎ、枝しばり、ふさづくり、てきりゅう、収穫などをしました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

僕は日本でブドウの栽培技術を学ぼうと思ってきました。でも最初の7か月は施設野菜の農家に入りましたので、ぶどうの方は半年しか出来なかったのです。今、考えてみるとやっぱり始めから（一年半）ぶどうをやれば良かったなと思っていますが、ぶどうづくりは非常にむずかしいので半ばになったと思っています。

7. 本邦での生活状況

日本に来て実際の農場で生活をして、ブラジルでしていた生活とはあんまり変わりがなかったので、問題はありませんでした。でもぶどうの手作業にはびっくりしました、こんなにこまかなこともやるとは思っていませんでした。

8. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

日本に来る前に、日本語を良く勉強したほうがいいと思います。日本語を良く話す、読み書くことが出来たら、すぐ自分の研修先について、自分がやりたい勉強に取りくめるからです。

9. 帰国後の計画

帰国したら、今、父さんと兄さんが経営してる農場で、あとのつづきを兄さんと一緒にぶどうの栽培をやりつづけます。

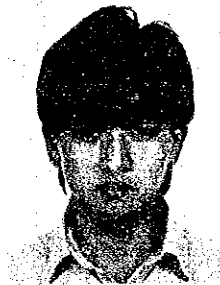
10. 所感

日本で学んだ事、新しい技術を生かして、短い期間では応えは出ないと思いますが、ブラジルのぶどうの経営者の人達に出来るだけ伝えたいと思っています。

この1年間、お世話になった農家、試験場、国際協力事業団、国際農業者交流協会の皆様色々とお世話になってどうもありがとうございました。

梨 元 雄 ニ ト ニ

(ブラジル・サンミゲルアルカンジョ)



1. 研修機関および研修期間

- (1) 果樹・巨峰栽培 91年5月～91年10月
- (2) 果樹・梨栽培 92年4月～91年9月

2. 受入期間(来日日～離日日)

91年4月～92年9月

3. 研修科目

農業、果樹専攻

4. 当初の研修計画(テーマ、研修内容等)

日本の果樹での技術を学んで、同時に日本人の生活や習慣、自分が少しでも日本人に近づける人間になりたいと思いました。

5. 研修概要(具体的研修内容及び成果)

果樹

5月～10月 長野県でぶどう栽培を学んで来ました。ハウス栽培の新たな技術を観察して来ました。

10月～12月 10月にりんご農家に移動しました。そこで収穫とその前後管理を学びました。

1月～3月 長野県果樹試験場で冬期研修、実習と学科を学び、主にせん定技術を観察して来ました。

4月～9月 千葉県梨農家で最後の研修を終えました。
せん定、管理収穫の実習でした。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

最初の所では少し予定がくずれてしまったが、そこでいろいろな影響がおきたと思いました。自分が望んでいました農家とはまったく逆でした。要するに勉強は出来なかったし、逆に仕事ばかりやらせられた思いがありました。

その後は希望通りに研修が進めることが出来ました。

7. 本邦での生活状況

どの研修先でも不自由さは感じませんでした。

食物でも全然こまる事はありませんでした。

8. 今後の指定研修制度に対する提言及び要望事項

各研修先へ移ってから一人一人が自由の中に責任をもつ事が大変重要だと思います。一人一人が研修生のプライドを大切に思っていてほしいと願っています。

9. 帰国後の計画

今の所では親が経営している農場を手伝うことです。

10. 所感

研修に対する感想は…

日本へ来ているんな面と言えば大変良かったと思います。研修そのものは技術的にはあまり学んでいませんが、自分の時期的な事では精神的にこの研修はいろんな進歩をあたえてくれたと思います。

水口セルジオ成二

(ブラジル、ジャカレイ)



1. 研修機関および研修期間

(1) 長野県松本市 田中秀長様 1991年5月～1991年12月

長野県野菜花卉試験場 1992年1月～1992年4月

(2) 佐賀県唐津市 池田好見様 1992年4月～1992年9月

2. 受入期間(来日日～離日日)

1991年4月～1992年9月

3. 研修科目

施設野菜

養鶏（ブロイラー）

4. 当初の研修計画

私は日本へきて野菜の技術栽培と養鶏の飼育管理について学ぶことでした。

5. 研修概要

前期研修：

平成3年5月17日から長野県で1年の研修を受けました。農家実習ではトマトときゅうりの栽培そして試験場ではバイオテクノロジーの最新技術を学ぶことができました。

(1) 農家実習内容：

土壌保守

土壌検査

土づくり

きゅうりとトマトの種まき

苗の管理

苗の移植

収穫までの植物管理

トマトときゅうりの病気

追肥のやり方

トマトときゅうりの選別と荷造り

農薬使用

(2) 試験場：

実習内容：

研究室：

培地づくり

カーネーションの成長点培養

イチゴの成長点培養

こんにゃくの苗づくり

データの取り方

温室：

土づくり

アスパラガスの種まき

カーネーションの移植

温室建設

後期研修：

平成4年4月4日から佐賀県での養鶏の研修を受けました。

農家実習内容：

入籠計画

入籠準備

籠の管理

鶏の飼育管理

養鶏場のクリーニング

ワクチネーション

衛生管理

鶏の病気

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較

私が計画していたことと実際の研修内容とはあまりわかりませんでした。そして後期研修計画している以上の内容について研修ができました。

7. 本邦での生活状況

最初の1ヶ月半は色々な国から来た研修生達と出会って、一緒に日本語の勉強したり話し合いをしたりしてとても楽しかったです。

前期研修の初めの1ヶ月は家族と近所の人達の生活に慣れるまで大変だったけれど今思い出すと良い体験ができ、とても良い勉強になりました。

8. 今後の指定研修制度に対する提言および要望事項

日本へ来て何を学びたいか、研修目的をはっきり持つておく事が大切だと思います。

9. 帰国後の計画

日本で18ヶ月間の研修で学んだ事をブラジルで実行して現在の農場をもっと大きくする希望と計画を立てています。

10. 所感

この18ヶ月間に色々良い事、悪い事も体験しました。そして研修で学んだ事を利用して帰国してから自分の夢を実際にしたいと思っています。

この研修期間中に沢山の人達と出会ってとても楽しかったです。

最後になりましたが、日本で無事に研修終了が出来たことは国際協力事業団と国際農業者交流協会の皆様のお陰です。皆様色々とお世話になりまして、心からお礼申し上げます。誠にありがとうございました。



1. 研修機関名および期間

J. A福岡市農協農機センター 3年5月～4年9月

2. 研修科目

農業機械

3. 当初の研修計画

- ・農業機械の点検整備及修理
- ・農業用エンジン（ディーゼルエンジン、ガソリン4サイクル、2サイ

クルエンジン）

- ・ディーゼルエンジン用燃料噴射装置
- ・電気、油圧系統
- ・自動車電気系統
- ・カーエアコン

4. 研修内容（実際の研修の内容、成果などを具体的に記入のこと）

－農業機械作業前の点検と整備

－作業後の点検、整備と修理

点検又整備方法

－点検箇所を知る

－点検時機を知る

－時期ごとの整備方法

修理方法

－機械の状態を知る

－状態により原因を判断する

－原因をみつける

－原因をみつけた後修理が可能かを判断する

－修理をできるだけ短時間でを行う

実習をとうして作業時間を短縮できるようになりました。故障原因を短時間で判断できるようになり十分に修理方法を身に付ける事ができました。

5. 当初の計画と実際の内容を比較して

計画どおり実習を行う事ができました。

計画内容によっては、計画より広く、更にまた細かい所まで学ぶ事ができました。

6. 本邦での生活状況

下宿に住み、研修期間中は、共同生活を行いました。

実習先は、農協であり、研修時間は午前8:45から午後5:00時まで。休みは、月に5~6日であるが農繁期には、思う様に休みがとれないこともあった。

休みの日は、専門書を読んだり、また友達と旅行をする機会もあり非常に有意義に過しました。

7. 帰国後の計画

小農用農業機械開発センターで農業機械の開発、改造又修理などを行う予定です。

将来はできれば自分の工場をもち生まれ育った移住地で農家のお手伝いをしたいと思います。

8. 本研修に対する提言、要望など

農業機械について学んできましたが、農業は作物の植え付けから収穫まで一年余りかかる。また期間ごと使用される機械が異なり、自分が各機械を整備又修理をする期間もそれに従って制限された。

実際には一通り、それぞれの機械に接することができたものの、一通りでは物足りないような気がしました。

研修期間がもう少し長ければもっと新しい発見又経験ができたと思う。

9. 所感

日本では、時間内で仕事を終えることがとても大切であり、時間を無駄にできない。

日本では機械を修理するにはあまり時間をかける事ができない、そのため欠陥部品だけ取り換える事もあった。

自分としてはもう少し細かい範囲で整備なり修理をやりかかったので若干残念に思う。

三井エスベランサみどり
(バラグアイ アスンシオン)



1. 研修機関名および期間

(1) 順天堂大学浦安病院 1991年5月~1991年12月

(2) 順天堂大学病院 1992年1月~1992年9月

2. 研修科目

臨床検査

3. 当初の研修計画

・日本で行なわれている臨床検査を一般的に広く浅く研修をして、細菌と血清検査を出来る限り深く研修をする事。

・検査室でのワーキングシステム(検体の受付から結果の報告までのステップ)

4. 研修内容(実際の研修の内容、成果などを具体的に記入のこと)

・一般検査:血液、尿、便、髄液、精液の検査

・病理検査:組織標本の作製、検死解剖の見学

- ・生理検査：心電図，呼吸機能，脳波，眼振図，聴力検査
- ・産婦人科：腹部領域，産婦人科領域の超音波検査
- ・輸血検査：日本での輸血検査の種類，血液型，交差試験，抗体スクリーニング，不適合妊娠の検出，院内採血
- ・尿路感染症の診断に役立つテストの検討
- ・血清検査：寒冷凝集反応，血清蛋白の電気泳動，免疫電気泳動法
- ・特殊検査：アイソザイムの分析
- ・細菌検査：培地の作り方，滅菌と消毒法，細菌培養法，染色法，薬剤感受性，好気性細菌，嫌気性菌の同定，結核菌群，らせん菌群，真菌の定義，形態，分類
- ・成果：ほとんどの実習は，マニュアルテクニックで教えていただいたため，大変勉強になりました。また，患者さんの検体ももらって，結果報告をするまで，自分で責任をもって先生の指導を受けながら検査を実施するのはとてもいい研修になります。

5. 当初の計画と実際の内容を比較して

研修に応募した時の計画は，細菌検査と血清検査の研修だったけれども，実際に日本に来て臨床検査全般を研修することになりました。輸血検査室で初めて実習をして新しい検査技術を学びました。

細菌検査，血清検査の研修が始まって，希望していたように，基本的なところから教えていただき，たくさんの知識を得る事が出来ました。

6. 本邦での生活状況

日本に着いて一ヶ月半の間はセンターに住むことになってはいたけれども，その後一番困ったのはアパートを借りることでした。日本国籍でない為，信用される事がかなり難しかった。

日常生活（買い物，交通機関の使い方，人間関係）には特に問題はありませんでした。

7. 帰国後の計画

病院の検査室で，日本で学んだ技術を教えて，また教えてもらいたいと思っております。大学を卒業して，まだ実際に職を求めた経験がない私には，これから覚える事がたくさんあります。

8. 本研修に対する提言，要望など

一般技術研修（一年半コース）の期間は少ないと思います。ですから，時間が無駄にならないように，問題をなるべく早く解決できるように担当者と相談をして，指導してもらい，積極的に行動するべきだと思います。

9. 所感

国際協力事業団の皆様大変お世話になり，迷惑をかけたり，心から感謝しております。この一年半色々な問題にであって，社会的な勉強にもなりました。

今，研修が終わりになって私は思うのは，こちらで学んだ技術そのものを私たちの国で使用す

るのではなくて、国の状況に適した方法で実習を生かすべきだと思います。

佐野高橋グラシエラマルガリータ

(ペルー、リマ)



1. 研修機関名および期間

A. 株式会社ポバイ 1991年5月～92年9月

B. デザインマック 1991年11月～92年8月

2. 研修科目

グラフィック・デザイン

A. ポバイ エディトリアルデザイン

B. デザインマック パッケージ・デザイン

3. 当初の研修計画

- ・日本人と同じように作業、仕事をしながら習う。
- ・日本のパッケージに興味があり、パッケージ専門事務所で研修する。
- ・日本の技術のレベルは世界一で、とても進んでおり、印刷工業、文房具屋、展覧会などを見学する。
- ・作業をしながら、ペルーのインカアートを伝える。
- ・コンピューター・グラフィックス・プログラムを使用しながら学ぶこと。

4. 研修内容 (実際の研修の内容、成果などを具体的に記入のこと)

A. ポバイ:

- ・研修を始めて最初にグラフィック・デザイン専門用語の勉強。
- ・会社で使用されている、機械などの扱い方、簡単な仕事をしながらペルーでは使われないマテリアルなどを使用して実習を行なう。
- ・デザイナーとクライアントの打ち合わせ会議に参加して、商売のやり取りを学ぶ。
- ・展覧会、工場などの見学。
- ・デザインの本が高く、図書館などで本を借りて、勉強する。

B. デザイン・マック

- ・研修を始めてから、日本でパッケージデザインをする時の基本的なマーケティング、印刷、指定などの勉強。
- ・電通代理店の仕事があって、良かった。
- ・ラフ・スケッチ (アイデア) を出す時に、デザイナー一人ではなく、6～7人の意見をまとめながら作業を進めて行く事がとても勉強になりました。
- ・デザインの競争は大変激しく、現場で経験者と同じように扱って貰い、作業に対して自信が

つきました。

5. 当初の計画と実際の内容を比較して

- ・計画内容によって内容と違ったことがありましたが、内容によっては広く、さらに細かいことまで学ぶことが出来ました。

6. 本邦での生活状況

- ・研修中はアパートで生活して来ました。研修生は代々木（ポパイ）で月曜日から金曜日まで朝の10時から7時ぐらいまで研修しました。土曜日、日曜日は休みでした。
- ・デザイン・マックの場合は大久保駅の近くで月曜日から金曜日までの9時から6時半ぐらいでした。
- ・けれども最後に水曜日から金曜日まで、デザインマックで研修して、土、月、火はポパイの方でした。
- ・研修生での仕事が忙しい時には、休をとるのは少し難しいこともあった。
- ・休の日には専門書を読んだり、又は展覧会を見に行ったり、親戚と合ったりする時間もありがたかった。

7. 帰国後の計画

- ・日本でグラフィック・デザインの研修、経験に関して、出来上がった作品を与って論文を提出します。
- ・ペルーのプレインカ、インカのモチーフを使いながら、カード、ハガキ、Tシャツなどをデザインする仕事を予定している。
- ・広告会社にもう一度勤めます。

8. 本研修に対する提言、要望など

自分の思っている研修を一つの会社では出来ないこともあり、実際に自分で研修先も探すこともあった。最終的には両方の会社で研修をするのが大変であった。

出来れば一つの会社だけで実際の研修を行うことが出来れば良かったと思います。

9. 所感

- ・グラフィック・デザインに関して、とても良い勉強になり、社会的にも、文化的にもとても良い経験でした。
- ・日本ではデザインに対して、とても競争激しく、時間外まで仕事をしなければならないが、仕事の成果または作品の出来上がった成果がとても高いことを感じました。



1. 研修機関名及び研修期間

ワーナー・ランバート株式会社

a システム部 91年5月15日から92年4月30日まで

b 購買部 92年5月1日から92年9月28日まで

2. 研修科目

a コンピュータとマーケティング

b 海外貿易

3. 当初の研修計画

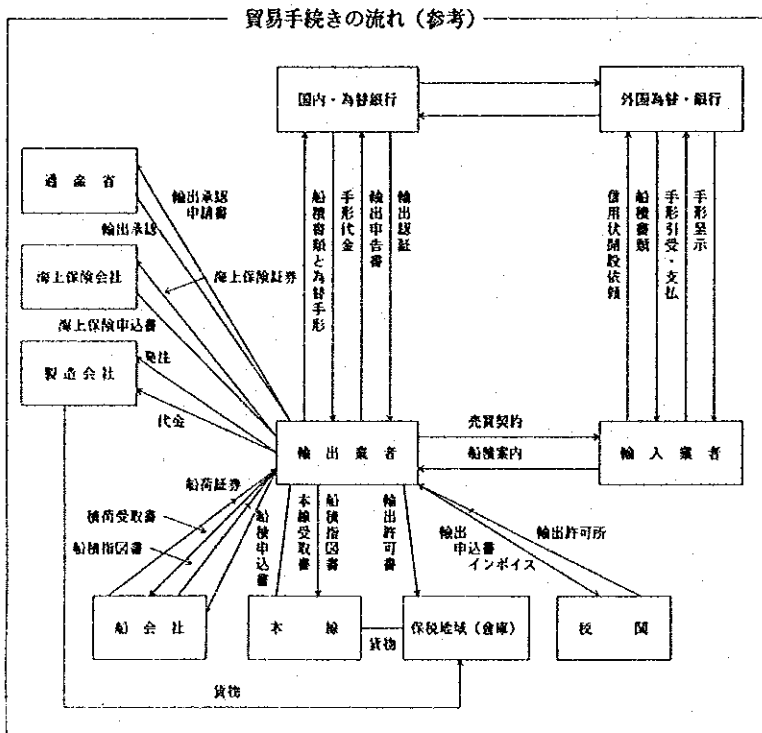
コンピューター（ネットワーク）

コンピューターを応用したマーケティング

平成4年度4月からは研修の第2期として購買部に配属となりました。そこでは根本さんの指導のもと海外貿易の手法を、研修しました。それと関連して様々な所を、見学しました。（問屋業者、ターミナル、工場等）またJETROなどで関連事項について調査しました。

次にあげるのが私がこの期間に学んだ事です。

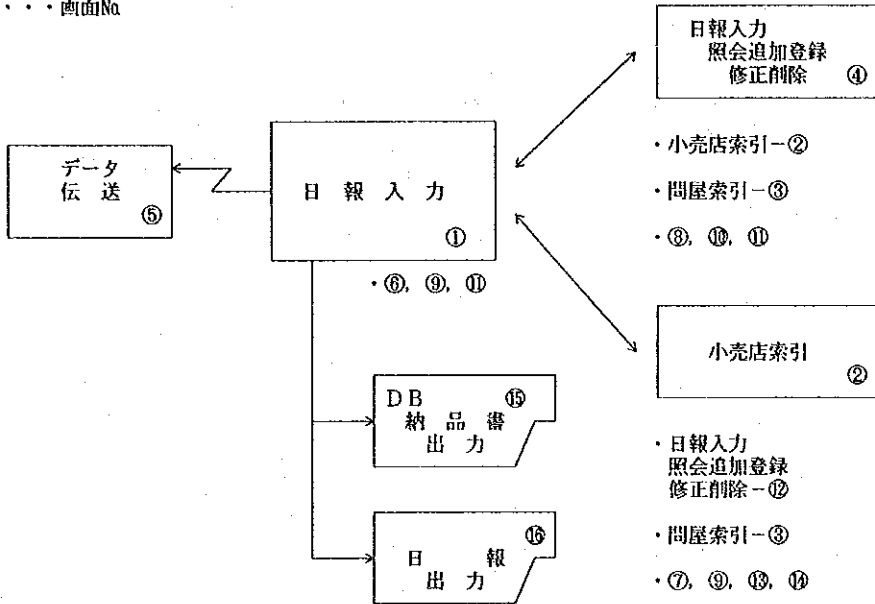
1. 海外貿易の概要
2. 海外貿易に関係する機関とその機能
3. 海外貿易に必要な書類作成



HHCの機能概略説明

RAIDシステム

○ ……画面No.



- ⑥ ウィンドー／日付・ニトリリー・ゾーンセクション
- ⑦ ウィンドー／活動状況
- ⑧ ウィンドー／種別数量
- ⑨ ウィンドー／抽出条件
- ⑩ ウィンドー／削除確認
- ⑬ 小売店項目入力
- ⑭ 小売店データ削除

このシステム開発に参加することにより次のような知識を得る事ができました。

1. MIS (Management Information system) 査定, システム解析・経費査定, 設備査定, 等)
2. ハンディ ターミナルの操作 (RAID systemのデータ入力)
3. 情報システム (VAN, 顧客データベース)
4. 日本における流通構造
5. 小売業の構造
6. 宣伝方法

4. 当初の研修計画（テーマ，研修内容）

私はJICAの研修生としてワーナーランバート株式会社で働く事ができました。ワーナーランバートはアメリカの多国籍企業で、主に3つの業種に分けることができます。（製菓部門，菓子部門・販売部門，健康製品製造・販売部門）

約16ヵ月研修を行い2期に分け行いました。

平成4年5月中旬～5年3月いっぱい，第1期としてシステム部に配属となりました。この期間，私はRAID systemの開発にアシスタントとして参加しました。RAID system（Retailer's Attach Impulse System）は，いままでのビジネスの要望に応えるために開発されました。その利点は，次のように要約できます。

1. 効率の良い効果的なセールスマンのビジネスの記録。
2. 1などの良質な情報があることによって可能になる，良いビジネスの判断決定。
3. 1，2に基づく効果的なビジネス戦略。
4. H/T（ハンディターミナル）を導入する事により生産性を上げセールスマンの活動を簡素化する。

方法：日報情報の流れ

日々発生する日報入力情報は情報ネットワーク（VAN）を介してメインフレームに蓄積される。

STEP1. NEXEED（HHC）に日報情報を入力する。

STEP2. 小売店に納品を行った時，納品書を出力する。

納品書は小売店に渡す。

受領書の受領印押印を確認する。

STEP3. 当日の業務終了後日報リストを出力する。

STEP4. 入力した日報情報は公衆電話回線を利用して情報ネットワーク（VAN）に伝送する。

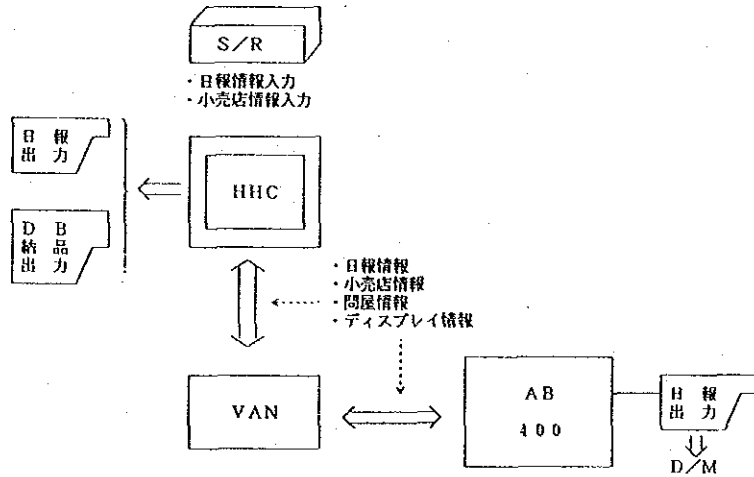
日報情報の送信終了後新規ないし，修正された商品・ディスプレイ情報・顧客情報がNEXEED（HHC）に受信され，NEXEED内の商品・ディスプレイ情報ないし顧客情報に追加されるかもしくは修正される。

STEP5. メインフレーム処理

1. 公衆電話回線を利用して情報ネットワーク（VAN）より日報情報をメインフレーム内に伝送する。

2. DMは事務所に出力された日報リストが手渡される。

ダスクノートー 小売店データベース
オペレーションフローチャート



5. 研修内容 (実際の研修内容, 成果などを具体的に記入のこと)

18カ月にわたる日本滞在では, ネットワークに関する点を除けば私の最初考えていた内容とは違った研修内容でしたが, 私が予想していたよりも, はるかに多くのことを学ぶことができました。この研修を通じて多くの貴重な経験や知識をつむ事ができました。

私の研修内容を要約すると,

会 社	内 容
ワーナーランバート システム部	RAIDシステム開発
ワーナーランバート 購買部	マーケティングの研修 (アダムズブランドの運営管理)
JRMB (Japan Market Research Bureau)	2つのマーケットリサーチに参加しました。 ①オーストラリアのワインについて。 ②若者の動向と習慣とファスト フードレストランのマーケットについて。
J. W. THOMPSON & DAI-ICHI-KIKAKU	広告会社であり, ワーナーランバートの商品がどのように宣伝されているかを見学した。

6. 本邦での生活状況

私の16カ月の東京での生活は, とても凄いいものでした。つまりとてもハードであり又わくわくするものでした。

私はけっして運命論者ではありませんが自分ではどうにもならないことは、あきらめる事につとめました。例えば、

- a 電車のラッシュ、これには本当に驚きました。なんとも形容の使用がありません

解決法 通勤時間をずらす。

利点 快適に通勤できる、下車後服の乱れが、気にならない。

- b 土地が狭い事

解決法 どうしようもないので、部屋を広くみせる工夫をする。

利点 滞在中どうにか生き延びれる。

- c 私だけではないとは思いますが、研修生の問題の99%は言葉の問題だと思います。例えば私がコピーの機能で縮小（しゅくしょう）を畜生と言ってしまって、会社の人に笑われてしまった事です。このような可笑しい、恥ずかしい話は沢山あります。

解決法 失敗を恐れない、あきらめる。

利点 会社の人達と仲良くなれる。

- d 人はなにか必要な時は充分すでに持っていても足りないと感じるものです。このことはJICAの支給金についてもいえるかもしれません。支給金の増額をお願いし迷惑をおかけしたと思いますが、事実東京での生活では足りなかったのです。

7. 帰国後の計画

新しいハイテクノロジーがふんだんに溢れている国に浸かってしまい、この素晴らしい技術が日常の物と感じてしまっている今、私の母国の現状を考えるととてもそれらを活用する状態ではない事が、わかります。しかし帰国後は私のみつけた技術をいくつか、私の前いた会社に応用したいと思います。特にマーケティングの方法とMISの導入が私の未来の計画です。

8. 本研修に対する提言、要望など

これらの素晴らしい経験をさせていただき、本当に感謝しています。しかし少し苦言を言わせてもらいますと、担当者の人はお忙しいとは思いますが、できるだけ時間を取って相談にのっていただければと思います。

9. 所感

一般的なことを言いますとたしかに人は人ですが、場所が変わると人も違います。つまりいかに日系でも理解できない事、違う事が有ると思います。しかしその事に、不平を言うてはいけません。変えようと試みてはいけません。でも思った事は言っていていいかおもいます。でもそのような経験も貴重な体験ですから、積極的に行動する事が大事だとおもいます。



1. 研修機関名および期間

富山蒲鉾株式会社 梅かま株式会社 〒930 富山市問屋町1-9-2
平成3年5月～平成4年9月

2. 研修科目

魚肉ねり製品製造(蒲鉾)水産加工物

3. 当初の研修計画

1) 蒲鉾の基礎的知識。

工程:

*原料→成型→調味→細工→揚げ物→惣菜→刺身(昆布め)→包装→流通関係。

2) 知識:

*例えば、蛋白質とバクテリアの関係、味とアミノ酸の関係、加熱と弾力関係など化学的であり、栄養価の高いバランスの取れた、素晴らしい食品です。

3) 関連企業の見学:

*富山冷蔵

*中央市場

*お菓子製造所

*個人の蒲鉾工場

4. 研修内容(実際の研修の内容、成果などを具体的に記入のこと)

*原料では、魚からすり身にする迄の、工程を把握することができます。

*成型では、いろんな形の蒲鉾を作ったり、手巻きで作ることもできます。

*細工では、絞り出しの袋を使って、ツル、カメ、タイ、字等も書けるようになりました。

*刺身(昆布じめ)サス(カジキマグロ)の昆布じめもできます。これは、とてもおいしいのですが、ウルグアイでは余り生の魚は食べないのでちょっと残念です。

*包装では、蒲鉾を長く保存させるために、真空包装と言う物があります。これには菌を殺すため熱湯(90℃～100℃)を通して殺菌をした後、冷却されて商品となってきます。この工程は、いろんな面に置いてても利用できるものと思います。

*流通関係に置いては、もっと交通が発達しウルグアイの方へも蒲鉾が早く送れるようになれば良いと思います。

5. 当初の計画と実際の内容を比較して

当初の計画通りに進むことができました。特別に比較することはありません。ただ、残念なのはお菓子の勉強ができなかったことです。又、機会があれば勉強したいと思います。

6. 本邦での生活状況

富山の人達は、とても親切で、暖かい心をもっていて、直ぐに友達になれました。たくさんの友達ができて、大変楽しくすごすことができました。

会社に入って、初めの頃一番の不安は、会社の人達と旨く友達になれるか、仕事もできるか、心配でした。しかし、1年6ヶ月たちましたが、今はお陰様で仕事も人間関係も旨く行っています。

富山県は、とても住みやすく良い所です。季節は、春、夏、秋、冬に別れていますが、春は、桜が咲き、夏は暑いので、海、秋は、木が紅葉して、とてもきれいです。冬は、雪がたくさん降るので、スキーをして楽しめます。研修としては最高に楽しみました。

又、食料品は、豊富にあり、特に蒲鉾がたくさんあって、直ぐに太ってしまいました。

住んでいる所からは会社から歩いて1分程です。皆様とは違って、直ぐ近いので、寝坊しても大丈夫です。

会社の方で、色々準備をしてもらい、例えば（冷蔵庫、テレビ、クーラ、ベット等）、直ぐに生活ができました。大変感謝しております。家に帰っても寝る迄は楽しく過ごすことができます。食事も会社で昼、夜と作ってもらったので、楽をさせてもらいました。国へ帰ったら、全部自分でしなければならないので、ちょっと心配です。

以上ですから、1年6ヶ月の間でしたが、私なりに良い体験ができました。

7. 帰国後の計画

ウルグアイは、魚がたくさんありますので、これを利用して、調味、形、揚げ物、惣菜等を研究して販売できればと思っています。

8. 本研修に対する提言、要望など

非常にいろんな面で待遇が良かったので特別にありません。

9. 所感

日本にきて、いろんな技術、伝統的文化、又、遊びも学びました。特に、生け花を習いました。帰国してもやぞん野草等を利用して飾って見たいと思っています。

大変よい思い出ができ、感謝しております。

ありがとうございました。

児玉純男リカルド
(ベネズエラ カラカス)



1. 研修機関名および期間

(1) サンコンピュータービジネス専門学校

91年4月1日～92年9月30日

2. 研修科目

経営科学・英会話・CAROL・ワープロ実習・コンピュータ英語・
簿記・ビジネス文書・商業事務・概論演習・COBOL実習・BAS
IC実習・技術研修1・数学・システム設計・ソフトウェア・ハード
ウェア

3. 当初の研修計画

当初からの研修計画はまず2.の研修科目に挙げた各科目を履修すると共に、年に2回行われる
検定試験や認定試験等を最低5つクリアすることでした。最終的な目的は国家試験の第2種をと
ることでしたが、残念ながら合格には至りませんでした。

研修先ではメイン的なプログラミングおよびコンピューター操作のレッスンを受けマスターす
ることも自分なりに計画を立て実行しました。

4. 研修内容 (実際の研修内容, 成果などを具体的に記入のこと)

研修内容は、3.の当初の計画と変わらず、具体的に1年半の間に取得した資格を記します。

取得資格		受験日	受験結果発表日
文部省後援・情報処理能力認定試験	B級	H 3 / 12 / 08	H 4 / 1 / 13
マイクロコンピューター利用者認定試験	4級	H 3 / 12 / 01	H 4 / 1 / 21
労働省・OA操作技能評価試験ワープロ	3級	H 3 / 12 / 25	H 4 / 1 / 23
ビジネス実務技能試験	3級	H 4 / 07 / 05	H 4 / 8 / 06
労働省・OA操作技能評価試験パソコン	3級	H 4 / 07 / 21	H 4 / 8 / 28

5. 当初の計画と実際の内容を比較して

私の場合は、専門学校でしたので事前にカリキュラム(時間割表等)が出来ており、最初から
個人的に計画が立てられなかったのですが、やはり専門学校だけあって、願い通りコンピュータ
の基礎からスタートすることが出来ました、そして実際カリキュラム通り研修を行ってみますと
徐々に基礎から入って行き、プログラミング・コンピュータ操作に至まで全てこなす事が出来ま
したので良かったと思います。勿論、時間割以外にもワープロの練習が可能だったため一石二鳥
的な研修を終えることが出来たことを嬉しく思います。

6. 本邦での生活状況

日本へ来たのは初めてではなかったのですが、研修を兼ねての一人暮らしに浸ったのは生まれ

て初めてのことでしたので、他の研修生達よりも一足先に研修先に行ったということもあり、スタートの時点では多少のためらいと不安が常に付きまといストレスのたまる日々を送っていましたが、時間がすぎると共に慣れてしまい、以外と早くごく普通の日常生活に溶け込むことが出来ました。1年半を振り返ってみてチョットしたトラブルが発生したのはNHKの受信料を集金に来た人にどう対応すれば良いのかわからず迷ったことが一回あったぐらいでした。

7. 帰国後の計画

来年の1月からOCS(Overseas Courier Service)CARACAS OFFICEを担当することにほぼ決定しましたので、帰国してからも準備のための研修を始め、OA機器、特にパソコン・ワープロ等を使用するのオートメーション化に努めると共に一日も早く仕事の流れを覚えて軌道に乗せるのが今後の計画です。

8. 本研修に対する提言、要望など

合同研修でも提言したことがあるのですが、やはりコンピュータに関して言わせてもらいますと1年半という期間は中途半端な研修に終わることになりますので、近い将来は是非研修期間を2年に延ばせたらどうかと思いますが予算的な問題が見え隠れしているのは理解できるのですが、なんとかそうなるよう頑張ってくださいと思います。

9. 所感

この1年半の研修を振り返ってみますと、研修のことだけではなく日本の文化のすばらしさ・人間関係・日常生活等に直にふれることが出来たことを一生涯忘れません、そしてJICA(スカラシップ制度)に深く感謝いたします。とてもすばらしい経験でした。

研修総括報告書（24カ月コース）

池 添 美 香
(パラグアイ ピラポ)



1. 研修機関及び研修期間

(1) 高知女子保育短期大学部 平成3年4月～平成5年3月

2. 受入期間(来日日～離日日)

平成3年4月～5年3月

3. 研修科目

幼児教育

4. 当初の研修計画(テーマ, 研修内容等)

幼児の教育における知識を身につける。

又、幼児の心理がよみとれ発達に応じた対応, 教育, 援助ができる様, あらゆる面の技術を身につける。

5. 研修概要(具体的研修内容及び成果)

カリキュラムにそって卒業に必要な単位を取得, 又それによって保母資格が取得できる。

系 列	単位数	備 考
一般教育科目	12以上	人文, 社会, 自然の各系列について, それぞれ2科目, 4単位以上 (二つ以上の科目にわたること)
外国語科目	2	英語
保健体育科目	2	講義1単位, 実技1単位
専門科目	58以上	必修51単位, 選択7単位以上
計	74以上	

授業科目	単位数	授業科目	単位数
日本国憲法	2	保育援助論	2
教育課程総論	2	国 語	2
教 育 史	1	教 育 実 習	4
教育方法論	1	教育実習の研修	1
保育内容総論	2		

※105 単位取得した。

以上の単位を取得し、幼稚園教諭2種免許状を取得することができた。

二年間の主な研修行事

4月 入学式 オリエンテーションセミナー	4月 2年前期授業開始 オリゼミ
7月 一日研修(3日間)	6月 保育実習Ⅰ(附属保育所へ実習)
7月～8月 夏季休業・合同研修会	7月 保育実習Ⅱ(石立保育園)
10月 前期末試験 保育実習Ⅰ(施設実習) 養護施設	8月 夏季休業(中) 保育実習Ⅲ(施設実習 ろうあ児施設)
12月 大学祭 特別講演	ろうくすのき寮
12月24日～1月 冬季休業	10月 前期末試験 教育実習(幼稚園実習) 初月幼稚園
1月 学長特別講義	12月 冬季休業
2月 後期末試験	1月 大学祭
3月(末) 合同研修会	2月 後期末試験
	3月 卒業式 研修修了式

時間割は次の様になっていてお昼休みなどの空き時間を利用してピアノのレッスン・クラブ活動(茶道具・華道部共に週1回), 又長期の休みにはボランティア活動, そしてチャンスがあれば旅行も楽しんだ。

時間割

I.	8:40	～	10:20
II.	10:30	～	12:10
III.	13:20	～	15:00
IV.	15:10	～	16:50

2年になると(後期)土曜日は講義がなく, 午後の部活だけに登校した(茶道部)。授業内容は, 講義演習, 実習とあり, 実習は学内と学外で行われた。教育実習は(10月)1ヶ月で期間が長かったので不安だったけれど, 見学観察, そして参加, 又毎日記録を書き記し, 評価実習があり, 反省会という様に段階をふみ, たちまち全部の実習が終わってしまった。あっけなく終わってしまい少々物足りなさを感じましたが, 自分の能力と限界をしる良いチャンスとなりました。自分の未熟さの為, 本来, 得られるべきものも, 得られなかったかも知れないが, 実習はやはり実際に現場に入り, 子ども達と触れ合いながらなので, 一方的な視点からだけと感じ取れたのではないだろうかと考えています。

その他, 専門教育科目の中の保育内容研究Ⅰ～Ⅶまでであるが, これが内容的にも興味深い科目だった。子どもの視界はどれくらいなのか, 子どもの絵から読めるものは何であるかなど, あるいは, 紙人形や指人形などの教材を造ったり, 植物・野菜を育てたり, 小動物を飼育してみたり

はば広く楽しめた。選択ともなると受講生も少なくなることもあるが、それによって希望する授業内容が出来たり、友人関係も深まり、又その友人達のあらゆる面での能力や発想に驚かされながら充実した2年間が過ごせました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

当初の計画はいわば抽象的な願いであり、実際の内容は研修期間のカリキュラムにそって行われたので比較することはできません。けれど、しいていえば様々な施設や幼稚園を見学すること、又日本での保育に携わることなどは、カリキュラムに組み込まれていたため、そうして体験できて良かった。

又、親戚を訪ねて行った時も保育園をのぞかせてもらったりして満足しています。

7. 本邦での生活状況

短大までは自転車で約10分ぐらいの距離で、スーパーや銀行も4～5分ぐらいの距離で、割合に近所にそろっていて便利なところでした。

近くに清んだ川が流れていて、景色も良く環境のすべてが良かった様な気がします。

ハイツの大家さんも近所の人もとても温かい人達で人間関係にも恵まれていた様です。が、時々セールスさんや宗教団体のお姉さんがよく訪れて困りました。

日本の四季を二回も楽しませて頂き感謝しています。

8. 今後の指定研修制度に対する提言および要望事項

ありません。

9. 帰国後の計画

帰国後は、再びピラポ聖霊幼稚園へ、又、職員不足のためピラポ中央日語小・中学校低学年の方もお手伝いさせて頂くことになりました。

幼稚園は年長のつき組を週5日間、小学校の方は週に1回(土曜日)勤めることに決まりました。

10. 所感

この研修で学んだ事を生かして、地元の状況を考慮しながら(日系であるということ)、こども達と共に生活し感じたことを研究し、理解を深めながら保育を実践して行きたいと思います。

最後にこういう機会が与えられたことに感謝し、JICAの皆さん、関係者のみなさん二年間ありがとうございました。



1. 研修機関及び研修期間
 - (1) 北海道栄養短期大学 3年4月～5年3月
2. 受入期間(来日日～離日日)
3年4月～5年3月
3. 研修科目
食物栄養学科
4. 当初の研修計画(テーマ, 研修内容等)
私の当初の計画は老人の食事療法について学ぶ事でした。
5. 研修概要(具体的研修内容及び成果)
 - 栄養学総論・各論: 食物が体内でどのように吸収されるか
 - 栄養学実習・調理学実習: 普通の調理及び専門的な調理(例: 乳児期)
 - 臨床栄養学・実習: 様々な疾病の原因及び治療, 実際に献立をたて実施
 - 公衆栄養学: 集団・地域あるいは国家といった視点での栄養活動, 栄養政策
 - 解剖生理学・実験: 生命体の構造と機能及び色々な能力の実験
 - 生化学・実験: 生物のもつ生命現象を化学の理論や方法で解析
 - 食品学総論・各論・実験: 色々な食物の性質及び体内への効果
 - 食品加工学・実習: 食品の加工法, 保存法を実施
 - 食品衛生学・実習: 食品による疾病や危害を未然に防止し, 人の生命と健康を守るための食品の安全性について
 - 公衆衛生学: 環境衛生の改善, 伝染病予防, 疾病の早期治療
 - 栄養指導論・実習: 個人あるいは地域集団の栄養状態を向上させるための指導活動
 - 給食管理・実習: 集団給食での経営・栄養・衛生管理・及びコンピュータを使用したの献立作成
 - 運動生理学: 運動と生理的機能について
 - 食生活論: 人間の食生活を成立させている要因や, その構造, さらには食生活がどのようなしくみで変化するのか
 - 病理学: 疾病における形態と機能・代謝の変化を研究, 疾病の原因治療

この他に学外実習で小学校, 病院, 施設にも実習で行って来ました。現場での栄養士の活動が見れて勉強になりました。
6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して
パラグアイにいた頃は栄養, 健康に関してあまり知識がなく, もっと簡単に考えていました。でも, この二年間で学んだ事は栄養, 健康とはもっと複雑で, 安易に考えていた自分はずかし

いです。

当初は老人の栄養についてしか考えていませんでしたが、実際には色んな世代の栄養について学べました。

7. 本邦での生活状況

半年間も寒い北海道で、この二年間大病もせずに過ごす事ができました。来日した時は二年間は長いと思いましたが、過ぎて見ればあっという間で、もう帰国なのかとおどろきです。

住んでいたマンションもとても快適で、一人暮らしにはピッタリでした。ただ問題なのは大学から遠かった事です。でも、それも過ぎて見れば良い思い出として心に残っています。

支部の方々もとても親切な人達ばかりで、研修につけ、プライベートにつけ、ずいぶんと力になって頂きました。心から感謝致します。

また日本人の友達もたくさんできて、別れるのがつらいです。

皆様のあたたかい友情忘れません。

8. 今後の指定研修制度に対する提言及び要望事項

色んな研修生がいて、その全員の希望に応えるのは大変かと思いますが、これからもより一層研修生の事をお願い致します。私の子供の時代にもこの制度が続いている事を祈ってます。

9. 帰国後の計画

まだ具体的には決めていませんが、できれば勉強した事を生かしたいと思っています。来る前と比べればパラグアイの状況も変わっていると思いますので、どうなるか分かりませんが、精一杯がんばります。

10. 所感

日本へ来て良かったとつくづく感じています。勉強以外にも色んな事を吸収できたと思います。これを良い方へ役立てればと考えています。

この二年間本当にお世話になりました。ありがとうございました。

金沢利子エリザベス

(パラグアイ アスンシオン)



1. 研修機関及び研修期間

(1) 会津短期大学 平成3年4月～平成5年3月

2. 受入機関(来日日～離日日)

平成3年4月～平成5年3月

3. 研修科目

食物栄養科

4. 当初の研修計画(テーマ、研修内容等)

健康を維持するための正しい食生活について、学ぶことが目的でした。

5. 研修概要（具体的研修内容及び成果）

食生活論：食生活と栄養の係り，栄養士の役割り，今後の栄養士の課題について学んだ。

社会福祉：社会福祉とは何か。

栄養学総論：人体における食物の役割を元にして理想的な

病理学：医学から見たヒトの一生，病気について学んだ。

栄養学各論：人間，一生の大切な時期の生理と栄養の関係。

臨床栄養学：病気の人々にあてる食事。

公衆栄養学：集団栄養の問題について。

食品学総論：食品のおいしい，まずいと評価できるのはなぜか。

食品学総論実験：化学実験を行うための必要な基礎知識。

食品学各論：食品の生化学的特性について学んだ。

食品加工学：微生物と動物性食品の加工原理を学んだ。

食品衛生学：食中毒の原因物質と化学性を学んだ。

公衆衛生学Ⅰ，Ⅱ：健康とは何か，世界保健機関について勉強した。

栄養指導論：人々にどう栄養について説明するための技術を学んだ。

調理学：調理をするために知っておかなければいけないこと。

調理学実習：和，洋，中国料理の基礎を実習した。

生化学：食品がどのようにして体の中で栄養になるかを学んだ。

生化学実験：栄養素がどのようにして，酵素にこわされるか。

応用微生物学：微生物の種類，生理について学んだ。

栄養学各論実習：各期別の献立を立てて，実習をする。

臨床栄養学実習：各病気の献立を立てて，実習してみる。

食品各論実験：各食品に含まれる代表的栄養素を取り出して見る。

食品加工学実習：食品を加工する原理と方法を学んだ。

食品衛生学実験：人体に害になるものを実際の食品や，食器に混じっていないか実験した。

栄養指導論実習：栄養に関して，わからない人々にどう指導するかを学んだ。

給食管理：集団給食の目的，運営管理等を学んだ。

給食管理実習（学内・外）：集団給食施設を実際に体験して見ること。

調理学実験：食品を調理することで化学的な現象が起こるので実験してみた。

解剖生理学（実習）：人間の体の機能と構造を勉強した。

食料経済：食料の問題について勉強をした。

栄養数理統計学：統計法をコンピュータで行う方法を学んだ。

食品理化学：食品のテクスチャーについて勉強した。

ゼミナール：酒の飲みくらべ、作り方、種類等を勉強した。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

研修計画と実際の研修内容には、全然問題がありません。私が考えていて、勉強したいというものもすべて学ぶことができました。日本でも、パラグアイのように成人病が多いということで、その点をポイントとして、講義が進められていたからです。学校でやった事は、すべてがこれから生きて行くために役に立つ事ばかりなので、栄養士にならなくても、100%活用できる研修でした。

7. 本邦での生活状況

この日本で2年間は、毎日忙しいけれども充実していました。月曜日から金曜日まで朝から夕方まで学校で過ごしました。クラブや実習の準備がある日は、夜になってしまうこともよくありました。最初のころは、90分の講義を5時間もすわりっぱなしで、じっと聞いているのが辛くて、家へ帰ると寝てしまうことが多かったです。しかし、今は全部が終わってもう、講義やレポートに追れる事もないと思うと本当にさみしい気持ちです。

学校の休みの土曜日、生花と茶道を習っていました。そして、日よう日は友達とドライブやハイキングに行ったりしました。一時期は、会津にあるお寺や歴史巡りをやった事もありました。私は、会津に来て、一番よかった事は、日本の伝統的な物が多くあるところで、自然も豊で、日本的な良さを見れたことです。

私は、日本へ来て、日本人だけではなくいろんな国の人々と友だちになれて、本当によかったです。パラグアイから出た事で今までよりも多くの友達がいろいろな国にできて楽しみも増えました。

8. 今後の指定研修制度に対する提言および要望事項

私はこの研修を2年間できてとても良かったと思うので、みんな2年間コースになると良いと思います。

2年の研修生も一緒に、1ヶ月半の日本語のコースに参加できれば、日本語だけでなく日本の文化やいろいろ学べるので良いと思っています。

9. 帰国後の計画

パラグアイでの栄養士の活動については、わからないので、まず糖尿病センターとかで、医師の食事療法を見てから決めたいと思っています。具体的な事は、まだ何も書けないけれども、うちの家族の食生活の管理をして見本にできればと思っています。

多くの人々が肉中心の食事を取っているので、バランスの取れた食べ方を指導してあげたいと思っています。

10. 所感

日本で勉強するチャンスを与えてくれたJICA一同に心から感謝しています。この2年間学んだことや体験した事は本当に大きい物で、これからの人生に大きく影響することでしょう。

竹 崎 泉
(パラグアイ イタ)



1. 研修機関及び研修期間
(1) 高知学園短期大学幼児教育科 平成3年4月～5年3月29日
2. 受入期間(来日日～離日日)
平成3年4月～5年3月29日
3. 研修科目
幼児教育
4. 当初の研修計画(テーマ, 研修内容等)
幼児教育の目的やあり方を知るよい指導法を身に付ける。
5. 研修概要(具体的研修内容及び成果)
平成3年4月8日入学式
10日授業始
一般科目と専門科目がありどのように選択するかによって単位がきまります。
一年目には一般科目がおもで後期になってやっと専門科目や保育所実習, 見学がありました。
二年目になると6月に幼稚園実習が4週間あります。
それが終わるとすぐのように施設実習が夏休みの間10日間あります。
そして最後に10月には保育園実習が3週間あります。
このように一年目は一般知識を身につけ二年目からやっと本格的な幼児教育者への道を歩みだすのです。
授業をとおして得る知識より実習でのほうがよりいっそう高い勉強ができました。
実習をとおして本当の自分が知ることでもでき, とってもよかったです。
6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して
当初の研修計画は日本の文化, また児童文学とより良い幼児教育法でした。
実際に日本文化は人々とのふれ合いで学び, 大学では素晴らしい授業の中で多くのことを身につけることができました。
7. 本邦での生活状況
最初はなれない所で一人ぼっちでしたので, とってもいやな思いをしました。でも月日がたつにつれて良い友達や先生型と親しくなり, とっても楽しい毎日を過ごしました。
夏の暑さにはまいりましたけれど, なれたら母国のようです。
帰国しても高知のことは第2母国と思って行きたいと思います。
また, いつかは日本へ遊びに来たいと思っています。
8. 今後の指定研修制度に対する提言及び要望事項
幼児教育を学びたいと思うのでしたら日本へ来る前に基本的なBEYER(ピアノ)をやってくると

いいでしょう、でないとピアノにばかり時間をとられ他のことが十分にやれないからです。(私がそうでしたから)

9. 帰国後の計画

日本で学んだことを国の幼稚園で子供たちに教え、いずれは自分の幼稚園をもちたいと思います。

10. 所感

長い2年間は少しは淋しかったのですが多くの友達が出来て、又、勉強が出来たので感謝の気持ちでいっぱいです。時にはわがママを言いましたが、長い目で見ていただいた皆さんには何といたらいいか反省しています。本当に2年間色々とお世話になりました。ありがとうございました。

前田 ロサ佳代
(パラグアイ イグアス)



1. 研修機関及び研修期間

(1) 高知女子大学保育短期大学部 平成3年4月～平成5年3月

2. 受入期間(来日日～離日日)

平成3年4月～平成5年3月

3. 研修科目

幼児教育

4. 当初の研修計画(テーマ、研修内容等)

- ・幼稚園及び小学校低学年での指導の技術を身につける。
- ・幼児教育についての理論と実践を学ぶ。
- ・多くの園や施設の現状を観る。
- ・レクリエーション指導について学ぶ。

5. 研修概要(具体的研修内容及び成果)

主な研修内容：・短大で講義を受ける(月曜～土曜日)

- ・保育実習、教育実習
- ・ピアノのレッスン
- ・期末試験

月曜日～金曜日は AM:08:40 PM:16:50 (4 制限)

土曜日は AM:08:40 PM:12:00 (各100分間)

授業科目は、一般教育科目と(人文科学, 社会科学, 自然科学, 各分野 2 科目 4 単位以上習得しなければならない)

専門教育科目（福祉、保育・教育、心理学、保健保育内容、基礎技能、教育実習の分野があり、58単位以上—必修50単位※8単位以上）があり、定められた単位を習得する事によって、保母資格が得られる。この他に必要な単位数（幼児必修）を充足すると、幼稚園教諭2種免許状の取得も可能である。

（私は107単位取得しました。）

一般教育科目では、哲学Ⅰ、文学Ⅰ、美術、日本国憲法、社会学、統計学、生物学Ⅰ、Ⅱを受け、専門教育科目では、社会福祉、教育原理、保育原理、教育史、障害児教育、同和教育、保育実習、教育実習、青年心理、乳幼児心理、教育心理学、小児保健、小児栄養等々の講義を受けた。

<実習内容>※保育実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ（学内実習 60時間、施設実習 180時間、学外保育実習 120時間がふくまれる）

※教育実習（180時間）および教育実習の研究（30時間）、見学、観察、参加がある。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

- ・研修を開始するまでは「幼児教育」を少し違った角度から理解していたと思います。二年たった現在、研修を終えて、はっきりと幼児教育と学校教育は全く違うものである事がわかりました。
- ・幼児教育の理論については、授業を通して学ぶことができ、実践の面では、実習期間を通して学ぶことができました。又、その実習で多くの園や施設を見る事ができ良かったと思います。
- ・授業の中で保育内容研究「子どもの生活・遊び」等の科目があり、その中で遊びやレクリエーションについての技術を身につける事ができました。又、指人形や影絵人形等も自分で作り、勉強になりました。

7. 本邦での生活状況

全ての面で不自由する事はなく、又、問題なく生活ができました。市内のアパートで一人暮らしをしましたが、同じアパート内に他にも研修生がいた為、お互い助け合い、淋しい思いをする事ありませんでした。大学まで自転車で10分くらいで行けます。電車通にも近く、銀行やスーパーも近くにあり便利でした。

※生活をする為に必要な道具はほとんど親せきに借りたり、リサイクルで買ったりして揃えました。

※食事は自炊をしたり、市販の物を買って食べたりしていました。

※休みの日には、家の中で過ごしたり、大学にピアノの練習に行ったり、町にショッピングにでかけたりしました。

8. 今後の指定研修制度に対する提言及び要望事項

大学の授業以外にピアノレッスンに通わせていただき、とても助かりました。幼児教育にとっては、ピアノは欠かせないものです。とても重要でためになると思うので、ぜひこれからも続け

て欲しいと思います。

9. 帰国後の計画

イグアス聖霊幼稚園に就職する予定です。

「どうしても幼稚園に」というわたしのわがままな要望を聞いていただきました。二年間学び得た事を生かし、自分の力を試してみたいと思います。

理想と現実のギャップは大きいと思いますが、精いっぱい頑張ります。

できるだけピアノも続けたいと思っています。

10. 所感

二年間大変お世話になりました。ありがとうございました。

日本で勉強をする機会を与えて下さった事、心から感謝しております。

初めてパラグアイを離れて、「一人でやって行けるだろうか」と不安でしたが、今思うと、「どんな時も一人ではなかった」ことに気づきました。仲間との出会い、短大の先生方の暖かい御指導、そして何より国際協力事業団の皆様方のおかげだと思っています。本当に貴重な経験をたくさんさせていただき、想像以上の事を学び、身につける事ができた事大変うれしく思います。いつも努力をする事を忘れずこれからも頑張りたいと思います。

第21回移住者子弟一般技術研修員一覽表

平成3年度(第21回)移住者子弟

No.	事務所	地区	氏名	性別	生年月日 (年齢)	国籍	両親等 出身地	研修課目
1	アルゼンティン	フエノスアイレス	安里 瑛財	男	1958.11.3 (32)	アルゼンティン	沖縄	花卉
2		コルドバ	大城 七か マリヤ	女	1966.1.28 (25)	アルゼンティン	沖縄	養鶏
3		フエノスアイレス	呉屋 明子 マリヤ	女	1960.10.17 (30)	アルゼンティン	沖縄	花卉
4	ポリヴィア	サンタ・クルス	西沢 由美	女	1969.12.6 (21)	日・ボ	長崎	コンピュータ
5		サン・ファン	伴 井 早苗	女	1971.9.25 (19)	日・ボ	北海道	コンピュータ
6	ベレーン	ベレーン	長瀬小夜 ヴォラ	女	1967.2.6 (24)	ブラジル	鹿児島	看護
7	ブラジル	アラソンドレ・グズン	赤岡 隆夫 (1991.6.3 米日)	男	1970.10.31 (20)	ブラジル	山梨	花卉
8	リオ・デ・ジャネイロ	ペロ・オリゾンテ	宮田 譲司	男	1965.12.24 (25)	ブラジル	茨城	自動車エンジン整備
9	サン・パウロ	サン・ジョゼ・ドス・カノス	小林武馬 武夫	男	1968.12.3 (22)	ブラジル	新潟	機械技術
10		ミナス・カリス	高橋 敏浩 こういち	男	1966.3.29 (25)	ブラジル	高知	花卉
11		ロンドリーナ	立岩 のえみ	女	1965.3.14 (26)	ブラジル	長野	看護
12		ミナス・カリス	田中 庸彦 ようひこ	男	1968.4.23 (22)	ブラジル	広島	花卉
13		サン・パウロ	谷口 知恵子	女	1966.2.6 (25)	ブラジル	茨城	物理療法
14		サン・パウロ	土井 ローザ 雅江	女	1967.3.25 (24)	ブラジル	福岡	コンピュータ
15		レジストロ	杉内 雅子 あけしづか	女	1972.4.21 (18)	ブラジル	福島	野菜施設栽培
16		カノイニアス	高橋 ヴォツ 高志	男	1971.5.30 (19)	ブラジル	高知	野菜施設栽培

一般技術研修員(前期)

研修期間: 1991. 4. 1~1992. 9. 28
 ただし※5名は1991. 4. 1~1993. 3. 29
 年 齢: 1991. 4. 1現在

研修機関	〒	所在地	代表者名	TEL
農事組合法人 堂ヶ島洋らんセンター 石川高原農場	904-11	沖縄県石川市嘉手苅961-30	支配人 笠原 卓	098-965-3400
(社)国際農業者交流協会	144 (287)	東京都大田区蒲田5-39-2 千葉県佐原市寺内1341)	会長 大河原 良雄 (鶴崎 和夫)	03-5703-0251 (0478-55-1437)
農事組合法人 堂ヶ島洋らんセンター 石川高原農場	904-11	沖縄県石川市嘉手苅961-30	支配人 笠原 卓	098-965-3400
長崎コンピュータ専門学校 プログラマ科	852	長崎県長崎市松山町4-40	学校長 別当 俊	0958-49-0001
学校法人 北海道情報学園サッポロハ イテックアカデミー	004	北海道札幌市厚別区厚別町 下野幌31-30 札幌テクノパー ク内	学校長 岡林 茂	011-867-6400
医療法人 雪の聖母会 聖マリア病院	830	福岡県久留米市津福本町422	院長 井手 道雄	0942-35-3322
岡山大学農学部	700	岡山県岡山市対馬中1-1-1	農学部長 中村 怜之助	0862-52-1111
茨城県立土浦産業技術専門 学院自動車整備科	300	茨城県土浦市大字中村西根 番外50-179	学院長 加藤 彰久	0298-41-3551
(株)新潟鉄工所新潟支社	950	新潟県新潟市岡山1300	支社長 田村 武次	025-274-5111
高知県農業技術センター	783	高知県南国市廿枝1100	所長 田中 豊年	0888-63-4911
北里大学病院	228	神奈川県相模原市北里1-15-1	病院長 坂上 正道	0427-78-8111
香川県農業試験場	761	香川県高松市仏生山町甲220	場長 山本 保	0878-89-1121
国立小児障害者リハビリテ ーションセンター	359	埼玉県所沢市並木4-1	総長 津山 直一	0429-95-3100
ユニバーサル電子計算株式 会社	150	東京都渋谷区恵比須1-18-14	代表取締役 橋本 勲	03-3444-9188
(社)国際農業者交流協会	144 (299-42)	東京都大田区蒲田5-39-2 (千葉県長生郡白子町古所3010)	場長 大河原 良雄 (鶴崎 一正)	03-5703-0251 (0475-33-5366)
同上	(437-14)	(静岡県小笠郡大東町中285)	(松本 恵次)	(0537-74-2481)

No.	事務所	地区	氏名	性別	生年月日 (年齢)	国籍	両親等 出身地	研修職種
17		マルアルバ	豊原憲二 エリツ	男	1970. 5. 30 (20)	ブラジル	広島	ぶどう栽培
18		サ・ミガ・ アカソ	梨元 雄二ト	男	1973. 4. 18 (17)	ブラジル	長野	果 樹
19		ジャカレイ	水口 セツ子 成二	男	1969. 7. 7 (21)	ブラジル	島根	野菜施設栽培
※ 20	パラグアイ	ピラポ	池添美香	女	1970. 1. 22 (21) (日本の戸籍は5. 22)	日・パ	愛媛	幼児教育
※ 21		チャベス	井沢幸子 イケル	女	1966. 7. 30 (24)	パラグアイ	北海道	米 養 士
※ 22		アスンシオン	金沢利子 イケル	女	1966. 10. 4 (25)	パラグアイ	福島	米 養 士
23		ラ・コルメナ	熊野新太郎 ニル	男	1970. 4. 13 (20)	パラグアイ	長崎	車両整備修理
※ 24		イ タ	竹 崎 泉	女	1970. 3. 19 (21)	パラグアイ	熊本	幼児教育
※ 25		イグアス	前田 唯佳代	女	1969. 12. 23 (21)	パラグアイ	高知	幼児教育
26		アスンシオン	三井 エズナ みどり	女	1967. 8. 15 (23)	パラグアイ	長野	臨床検査技術
27	ペル	リマ	佐野 グラシエ マリア	女	1969. 4. 29 (21)	ペルー	静岡	グラフィックデザイン
28		リマ	ロハス(北条) マリアアリシア	女	1966. 4. 3	ペルー	福島・ 山形	マーケティング
29	在ウルグアイ 日本国大使館	カネロス	鷺見美枝 マリア	女	1969. 1. 3 (22)	日・ウ	岐阜	水産食品加工
30	在ヴェネズエラ 日本国大使館	カラカス	児玉純男 マリア	男	1964. 2. 17 (27)	日・ヴ	静岡	コンピュータ

研 修 機 関	〒	所 在 地	代表者名	TEL
(社)国際農業者交流協会	(408)	(山梨県中巨摩郡武川村 牧ノ原1622)	(中込 豊)	(0551-26-2329)
同 上	(383)	(長野県中野市竹原1351)	(市川 勇)	(02692-6-4713)
同 上	(390)	(長野県松本市島立2828)	(田中 秀長)	(0263-47-4020)
高知女子大学保育短期大学 部	780	高知県高知市大原町132	部 長 村 義 一 島	0888-33-2918
北海道米養短期大学食物米 養学科	061-14	北海道恵庭市黄金町196-1	学 長 今 井 陽	0123-34-0011
福島県立会津短期大学食物 米養学科	965	福島県会津若松市一箕町 大字八幡字門田1-1	学 長 高 瀬 喜左衛門	0242-22-6131
福岡市農協指導経済総合セ ンター	810	福岡県福岡市西区福重1-16-6	組 合 長 理 事 濱 地 重 信	092-891-5911
高知学園短期大学幼児教育 科	780	高知県高知市旭天神町292-26	学 小 長 野 義 三	0888-40-1121
高知女子大学保育短期大学 部	780	高知県高知市大原町132	部 長 村 義 一 島	0888-33-2918
順天堂大学医学部附属順天 堂浦安病院	279	千葉県浦安市富岡2-1-1	院 長 塚 親 哉 大	0473-53-3111
株式会社ポバイ	151	東京都渋谷区代々木1-55-14 セントヒルズ1301号	代表取締役 森 山 茂	03-3378-9881
ワーナー・ランバート株式 会社	108	東京都港区白金台3-19-1	代表取締役社長 Maurice A. Renshaw	03-3448-8616
富山蒲鉾株式会社	108	富山県富山市問屋町1-9-1	代表取締役社長 佐々木 俊 夫	0764-51-3101
学校法人太陽学園 サンコンピュータビジネス 専門学校	514	三重県津市広明町333	校 長 高 尾 保 彦	0592-25-6253

平成3年度(第21回)移住者子弟

No.	事務所	地区	氏名	性別	生年月日 (年齢)	国籍	両親等 出身地	研修課目
1	アルゼンティン	ブエノスアイレス	安里 ミリ	男	1958.11.3 (32)	アルゼンティン	沖縄	花卉
2		コルドバ	大城 モカハツ	女	1966.1.28 (25)	アルゼンティン	沖縄	養鶏
3		ブエノスアイレス	呉屋 明子 マコト	女	1960.10.17 (30)	アルゼンティン	沖縄	花卉
4	ボリビア	サンタ・クルス	西沢 由美	女	1969.12.6 (21)	日・ボ	長崎	コンピュータ
5		サン・ファン	井 早苗	女	1971.9.25 (19)	日・ボ	北海道	コンピュータ
6	ベレーン	ベレーン	長瀬小夜 サト	女	1967.2.6 (24)	ブラジル	鹿児島	看護
7	ブラジル	アラゴアス	赤岡 隆夫 (1991.6.3 来日)	男	1970.10.31 (20)	ブラジル	山梨	花卉
8	リオ・デ・ジャネイロ	カポ・オリゾンテ	宮田 譲司	男	1965.12.24 (25)	ブラジル	茨城	自動車エンジン整備
9	サン・パウロ	サン・ジョゼ・ドス・カサス	小林武馬 武夫	男	1968.12.3 (22)	ブラジル	新潟	機械技術
10		モジ・ダス・カサス	高橋 浩一	男	1966.3.29 (25)	ブラジル	高知	花卉
11		ロンドリーナ	立岩 のえみ	女	1965.3.14 (26)	ブラジル	長野	看護
12		モジ・ダス・カサス	田中 庸彦	男	1968.4.23 (22)	ブラジル	広島	花卉
13		サン・パウロ	谷口 知恵子	女	1966.2.6 (25)	ブラジル	茨城	物理療法
14		サン・パウロ	土井ローザ 雅江	女	1967.3.25 (24)	ブラジル	福岡	コンピュータ
15		レジストロ	杉内 じづか	女	1972.4.21 (18)	ブラジル	福島	野菜施設栽培
16		カノイニアス	高橋 ショウ 高志	男	1971.5.30 (19)	ブラジル	高知	野菜施設栽培

一般技術研修員(後期)

研修期間: 1991. 4. 1~1992. 9. 28
ただし※5名は1991. 4. 1~1993. 3. 29
年 齢: 1991. 4. 1現在

研修機関	〒	所在地	代表者名	TEL
第一園芸プランテック 富士小山研究農場	410-13	静岡県駿東郡小山町上野 1101-1	研究農場長 武田 恭明	0550-6-06540
(株)国際農業者交流協会	144 (287)	東京都大田区蒲田5-39-2 (千葉県佐原市寺内1341)	会長 大河原 良雄 (鶴崎 和夫)	03-5703-0251 (0478-55-1437)
岡山大学 農学部 花井研究室	700	岡山市津島中1-1-1	教授 小西 国義	0862-52-1111 (726)
長崎コンピュータ専門学校 プログラマ科	852	長崎県長崎市松山町4-40	学校長 別当 俊	0958-49-0001
学校法人 北海道情報学園サッポロハ イテクアカデミー	004	北海道札幌市厚別区厚別町 下野幌31-30 札幌テクノパー ク内	学校長 岡林 茂	011-807-6400
医療法人 雪の聖母会 聖マリア病院	830	福岡県久留米市津福本町422	院長 井手 道雄	0942-35-3322
株式会社 ミヨシ	160	東京都世田谷区八幡山2-1-8	社長 三好 世紀	03-3302-4755
加藤自動車興業株式会社	300	茨城県土浦市千束5-1	社長 加藤 禎宏	0298-21-1574
(株)新潟鉄工所新潟支社	950	新潟県新潟市岡山1300	支社長 田村 武次	025-274-5111
高知県農業技術センター	783	高知県南国市廿枝1100	所長 田中 豊年	0888-63-4911
北里大学病院	228	神奈川県相模原市北里1-15-1	病院長 坂上 正道	0427-78-8111
高知県農業技術センター	783	高知県南国市廿枝1100	所長 田中 豊年	0888-63-4911
医療法人 大道会 ポーバス記念病院		大阪市城東区中浜1-5-1	理事長 大道 学	06-962-3131
ユニバーサル電子計算株式 会社	150	東京都渋谷区恵比須1-18-14	代表取締役 橋本 勲	03-3444-9188
(株)国際農業者交流協会	144 (299-42)	東京都大田区蒲田5-39-2 (千葉県長生郡白子町古所3010)	会長 大河原 良雄 (鶴崎 一正)	03-5703-0251 (0478-33-5366)
同上	(437-14)	(静岡県小笠郡大東町中285)	(松本 恵次)	(0537-74-2481)

No	事務所	地区	氏名	性別	生年月日 (年齢)	国籍	両親等 出身地	研修職種
17		マルアルバ	豊原憲二 エリツ	男	1970. 5. 30 (20)	ブラジル	広島	ぶどう栽培
18		サ・ミガ 7カソ	梨元 雄二 ト	男	1973. 4. 18 (17)	ブラジル	長野	果 樹
19		ジャカレイ	水口 敏成 成二	男	1969. 7. 7 (21)	ブラジル	島根	野菜施設栽培
※ 20	パラグアイ	ピラポ	池添美香	女	1970. 1. 22 (21) (日本の戸籍は5. 22)	日・パ	愛媛	幼児教育
※ 21		チャペス	井沢幸子 イサキ	女	1966. 7. 30 (24)	パラグアイ	北海道	栄養士
※ 22		アスンシオン	金沢利子 エリカ	女	1966. 10. 4 (25)	パラグアイ	福島	栄養士
23		ラ・コルメナ	熊野新太郎 ニコ	男	1970. 4. 13 (20)	パラグアイ	長崎	車両整備修理
※ 24		イタ	竹崎 泉	女	1970. 3. 19 (21)	パラグアイ	熊本	幼児教育
※ 25		イグアス	前田 唯佳代	女	1969. 12. 23 (21)	パラグアイ	高知	幼児教育
26		アスンシオン	三井 エリカ みどり	女	1967. 8. 15 (23)	パラグアイ	長野	臨床検査技術
27	ペルー	リマ	佐野 グラシエ マリア	女	1969. 4. 29 (21)	ペルー	静岡	グラフィック・デザイン
28		リマ	ロハス(北条) マリ アリシア	女	1966. 4. 3	ペルー	福島・ 山形	マーケティング
29	在ウルグアイ 日本国大使館	カネロス	鷺見美枝 マチ	女	1969. 1. 3 (22)	日・ウ	岐阜	水産食品加工
30	在ヴェネズエラ 日本国大使館	カラカスン	児玉純男 純	男	1964. 2. 17 (27)	日・ウ	静岡	コンピュータ

研修機関	〒	所在地	代表者名	TEL
(株)国際農業者交流協会	(408)	(山梨県中巨摩郡武川村 牧ノ原1622)	(中込 豊)	(0551-26-2329)
同上	(383)	(長野県中野市竹原1351)	(市川 勇)	(02692-6-4713)
同上	(390)	(長野県松本市島立2828)	(田中 秀長)	(0263-47-4020)
高知女子大学保育短期大学 部	780	高知県高知市大原町132	部長 村 義 一 島 村 義 一	0888-33-2918
北海道栄養短期大学食物栄養 学科	061-14	北海道恵庭市黄金町196-1	学 長 井 陽	0123-22-6131
福島県立会津短期大学食物 栄養学科	965	福島県会津若松市一箕町 大字八幡字門田1-1	学 長 高瀬 喜左衛門	0242-22-6131
福岡市農協指導経済総合セ ンター	810	福岡県福岡市西区福重1-16-6	組合長 理事 濱 地 重 信	092-891-5911
高知学園短期大学幼児教育 科	780	高知県高知市旭天神町292-26	学 長 小 野 義 三	0888-40-1121
高知女子大学保育短期大学 部	780	高知県高知市大原町132	部長 村 義 一 島 村 義 一	0888-33-2918
順天堂大学医学部附属順天 堂医院	113	東京都文京区本郷2-1-1	院 長 山 内 裕 雄	03-3813-3111 (代)
株式会社デザイン・マック	151			03-3362-5191
ワーナー・ランバート株式 会社	108	東京都港区白金台3-19-1	代表取締役社長 Maurice A. Renshaw	03-3448-8616
富山蒲鉾株式会社	108	富山県富山市問屋町1-9-1	代表取締役社長 佐々木 俊 夫	0764-51-3101
学校法人太陽学園 サンコンピュータビジネス 専門学校	514	三重県津市広明町333	校 長 高 尾 保 彦	0592-25-6253

ゆうかり

©Japan International Cooperation Agency (JICA) 1994

1994年2月 発行

編集兼
発行者

国際協力事業団 移住事業部 国内事業課

〒163 東京都新宿区西新宿2丁目1番1号

新宿三井ビル内 私書箱 216号

電話 (03) 3346-5311 (代表)

印刷・製本 有限会社 盛光印刷所

〒102 東京都千代田区飯田橋4-6-3

電話 (03) 3264-1851

JICA